

2026年10月期 第3四半期

決算補足説明資料

株式会社CAICA DIGITAL

2026年9月14日

INDEX

01	当社概要	03
02	当期の要点	12
03	2026年10月期 第3四半期概要	16
04	2026年10月期 通期業績見通し	24
05	トピックス	30
06	補足説明	55

当社概要

Corporate Overview

01

02

03

04

05

06

会社概要

持株会社

会社名	株式会社CAICA DIGITAL
上場市場	東京証券取引所スタンダード市場 証券コード：2315
事業内容	グループ会社の管理運営 DXソリューションサービス事業 セキュリティソリューション事業
設立	1989年7月14日
所在地	東京都港区南青山五丁目11番9号
代表	代表取締役社長 鈴木 伸 代表取締役副社長 山口 健治
資本金	50百万円
連結売上高	5,195百万円（2025年10月期）
決算期	10月

主要子会社

会社名	株式会社CAICAテクノロジーズ
事業内容	- ITサービス事業 - システムインテグレーション事業
会社名	株式会社カイカフィナンシャルホールディングス
事業内容	- INO Fine運営事業 - カスタマーディベロップメント事業
会社名	株式会社ネクス
事業内容	- 各種無線方式を適用した通信機器の開発、販売 - 上記にかかわるシステムソリューション提供及び保守サービス
会社名	株式会社善光総合研究所※1
事業内容	介護業界のDX化支援のためのコンサルティング業務

1. 株式会社善光総合研究所（以下、善光総研）は2026年2月6日付で子会社化しております。
また2026年10月期第3四半期より損益計算書を連結しております。



労働集約モデルからソリューションモデルへの事業転換

当社グループはこれまで、エンジニアの人数や稼働量に依存する労働集約型ビジネスが売上の多くを占めておりました。一方で、生成AIをはじめとする技術革新が急速に進展する中、人的稼働に依存した収益構造から、より高い付加価値を創出するソリューション提供型モデルへの転換を進めております。

2025年10月期には、新規事業であるDXソリューション領域を大きく拡大するとともに、M&Aによりネクスを子会社化いたしました。さらに、2026年2月には善光総合研究所の子会社化も実現しております。
また、DXソリューション事業・セキュリティソリューション事業などのソリューション事業をCAICA DIGITALに吸収分割により承継することで、重点領域への経営資源配分を明確化し、グループとしての推進体制を一層強化してまいります。

2026年10月期は、エンジニアのリスクリングを戦略的に推進するとともに、ネクスおよび善光総合研究所を中核として、コンサルティング機能とITを融合させたソリューション展開を加速してまいります。これにより、グループ横断での高付加価値サービスの創出と収益性の向上を図ってまいります。

代表メッセージ

経済安全保障におけるサイバーセキュリティの重要性増加や、生成AIの急速な進展により、企業のIT投資は高度化・複雑化の一途をたどっております。当社グループを取り巻く事業環境も大きく変化しており、従来の労働集約型のSIモデルのみでは、持続的成長を実現することが困難な局面を迎えていると認識しております。こうした環境変化を前向きに捉え、当期より事業ポートフォリオの転換を本格的に推進してまいります。

2026年10月期第1四半期より、前期末に取得した株式会社ネクスを連結子会社として加え、新たなグループ体制でのスタートを切りました。ネクスが有する通信・IoT領域における技術基盤および顧客ネットワークは、当社既存事業との親和性が高く、ソリューション提供力の高度化および付加価値向上に資するものと考えております。さらに、2026年2月に子会社化した株式会社善光総合研究所も当社グループに加わり、コンサルティング領域における知見・顧客基盤が新たに加わりました。また、DXソリューション事業・セキュリティソリューション事業などのソリューション事業をCAICA DIGITALに

吸収分割により承継することで、重点領域への経営資源配分を明確化し、グループとしての推進体制を一層強化してまいります。これらの施策により、グループ全体の事業領域拡張と収益基盤の多様化を図ってまいります。

2026年10月期は、従来の人的リソース依存型モデルから脱却し、ソリューション型ビジネスへの転換を進める重要な一年と位置付けております。当社は、AIの台頭を大きなチャンスと捉えており、AIを活用することで競争力を強化し、付加価値の源泉を「人月」から「コンサルティング・ソリューション・サービス」へと進化させてまいります。そのための組織体制整備、人材育成、M&Aを着実に推進してまいります。

新たなグループ体制のもと、中長期的な企業価値向上を最重要課題として、収益構造の変革と持続的成長の実現に全力で取り組んでまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

CEO代表取締役社長 鈴木 伸



当社のセグメント

ITサービス事業

株式会社CAICA DIGITAL
株式会社CAICAテクノロジーズ

金融サービス事業

株式会社カイカフィナンシャルホールディングス

IoT関連事業

株式会社ネクス

介護DX事業

株式会社善光総合研究所

ITサービス事業について

ITサービス事業は当社の主力事業として売上の中核を担い、安定的に収益へ貢献してまいりました。今後は事業拡大を継続するとともに、AIの進展を見据え、人的リソース依存型モデルから高付加価値なソリューション提供型モデルへの転換を推進いたします。その中核を担うDXソリューションを成長ドライバーと位置づけ、さらなる拡大を図ってまいります。

ITサービス事業

ブロックチェーン等の最先端技術や豊富な開発実績を活かした自社開発のITサービスを販売しております。企業のデジタル・トランスフォーメーション（DX）化を実現します。

システムインテグレーション事業

金融、ポイント・決済、公共・官公庁、EC・通販をはじめとした業界領域で培ったノウハウを基に、システムの企画検討から、設計・構築、運用・保守に至るまで、フロント、バックオフィスから基幹系システムを問わず最適なシステム提供をいたします。

DXソリューションサービス事業※1

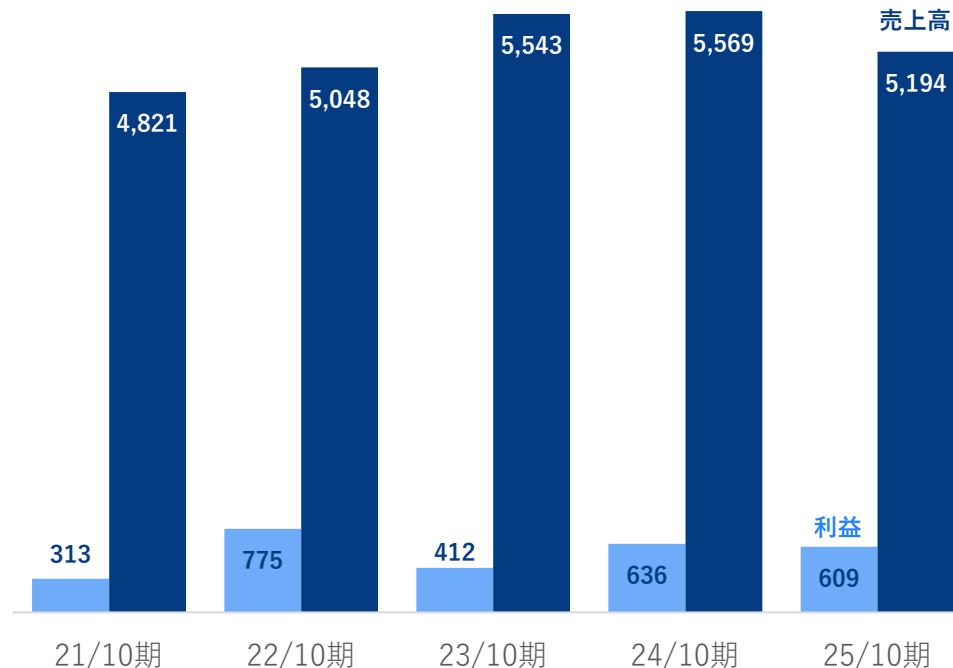
AIを活用したDXソリューションの開発を手掛けるベンダーと提携し、DXソリューションプロダクトを提供します。

▶ DXソリューションサービス詳細57ページへ

1. 2026年7月1日より持株会社CAICA DIGITALの直下に移行。
但し、報告セグメントについてはITサービス事業を継続。

セグメント売上高・利益推移※2

(百万円)



2. セグメント売上高は内部取引控除後の数字を記載

金融サービス事業について

金融サービス事業は当社グループにおけるWEB3戦略を展開してまいりました。2023年10月期末に暗号資産交換所等を営む子会社を売却したことにより、収益構造は大きく改善しております。現在は新規事業創出に向けた先行投資フェーズと位置づけ、事業推進しております。

INO Fine運営事業

審査制NFT販売所(一次販売)の運営を行います。INO Fine が審査することで厳選された NFT を安心してご購入いただけます。さらに、クレジットカード決済対応可能で、暗号資産をお持ちでない方でも簡単にNFT を購入頂けます。暗号資産やウォレットが不要でNFT が所有できる「NFT カード」も販売中。

▶ NFT漫画プロジェクトの取り組み 42～44ページ

暗号資産発行・運用事業

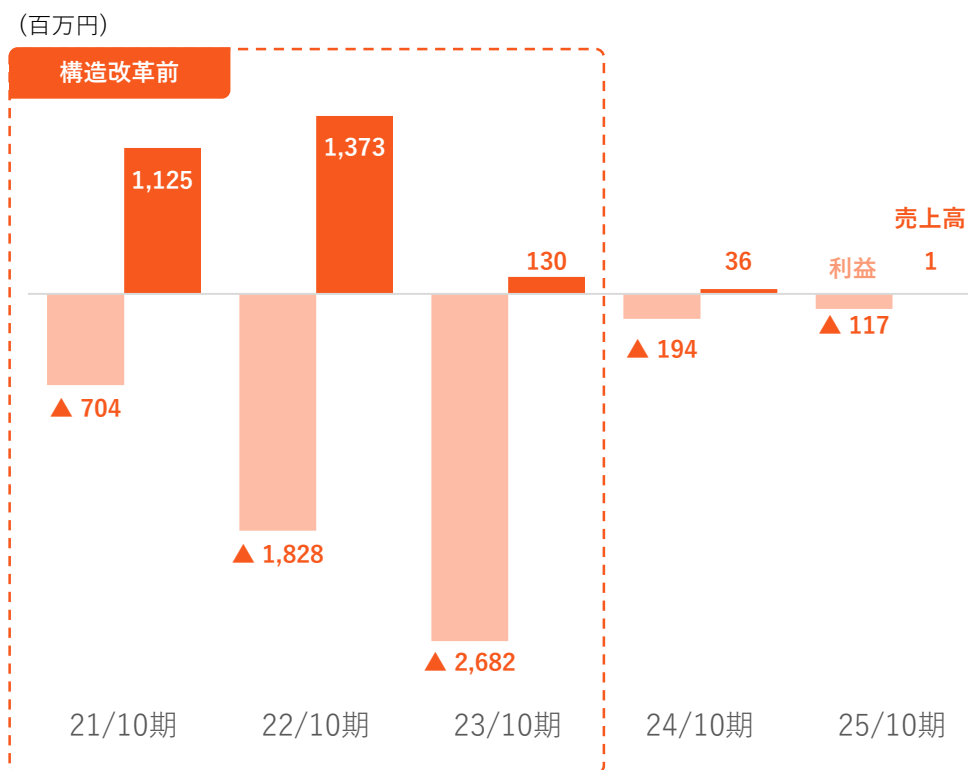
自社発行暗号資産カイカコインを活用したサービス展開を行います。カイカコインのユーティリティ向上に伴う需要の増加により収益の最大化を図ります。

▶ 当社発行暗号資産 カイカコイン概要 59ページ

カスタマーディベロップメント事業

暗号資産や金融業界をはじめとした様々な業界に適応可能な顧客対応事業です。ご相談いただいた業務内容に合わせて、高水準のカスタマーサポートチームを提供するほか、カスタマーとの良好な関係構築を支援いたします。

セグメント売上高・利益推移



1. セグメント売上高は内部取引控除後の数字を記載

IoT関連事業について

IoT関連事業では通信技術を基盤としたテクノロジーソリューションを展開し、産業機器の遠隔監視や重要インフラのバックアップ用途で信頼されるデータ通信端末を主力としています。テレマティクス事業では、OBD II 端末を活用した車両データにより安全運転指導や業務効率化を支援。さらにエッジAI領域に注力し、画像解析や5G/RedCap対応製品を通じてDXを推進しています。

AI/IoT分野

5G RedCap対応端末やエッジAI技術を活用し、IoT機器から取得したデータの収集・連携を支援。

▶ 製品概要 60ページ

テレマティクス分野

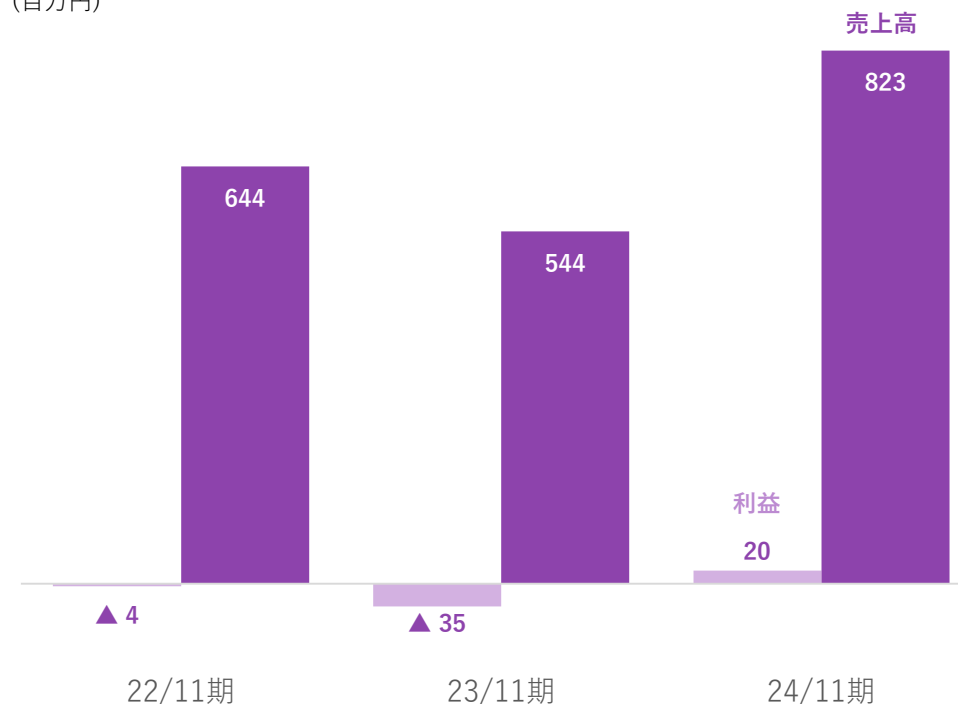
車両データを収集・活用するIoT機器を展開し、安全運転管理や動態管理、EV管理などを支援。

通信端末分野

5G対応ルーター・モデムなどを展開し、法人向け5G通信や幅広いIoT用途に対応。

セグメント売上高・利益推移

(百万円)



1. 当社連結子会社化（ネクス）する前の数値を記載

介護DX事業について

介護DX事業は介護現場のDX化推進を目的として、現場起点で開発された介護アプリケーション「SCOP」の開発・販売等を行っております。当社の培ってきたAI、ブロックチェーン技術、株式会社ネクスが培ってきたIoT、通信技術を融合することで、記録・請求・見守り業務を一体的に高度化し、介護現場の業務効率向上と付加価値創出を図ってまいります。

DXプラットフォーム事業

介護現場の業務効率化とケアの質向上を支援する介護DXプラットフォーム「SCOP」を開発・提供しています。介護記録や利用者情報を一元管理するとともに、介護ロボット・ICT機器等との連携を通じて、現場業務のデジタル化・生産性向上を実現します。

▶ 事業詳細65ページ

デジタル人材育成事業

介護職員のデジタル活用力や業務改善スキルの向上を支援する人材育成事業を展開しています。介護DXに必要な知識・技能を体系的に学ぶ認定資格「スマート介護士」の運営をはじめ、現場のDXを担う人材の育成を推進しています。

コンサルティング事業

介護事業者や自治体に対し、介護サービスの質向上や業務効率化、生産性向上に向けたコンサルティングを提供しています。介護現場で蓄積した知見とデータを活かし、ICT・介護ロボットの導入から業務オペレーションの改善・定着まで一貫して支援します。

▶ 事業詳細64ページ

損益計算書への組み込みと売上偏重について

善光総研

	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
--	----	----	----	----	----	----	--	--	--

第3四半期

第4四半期

CAICA DIGITAL

			5月	6月	7月	8月	9月	10月	
--	--	--	----	----	----	----	----	-----	--

第3四半期

第4四半期

善光総研の売上高・利益は**第3四半期に大きく偏重する**傾向にあり、当第3四半期はその数値が連結されています。

当期の要点

Key Highlights

01

02

03

04

05

06

善光総研の子会社化に伴う会計処理について

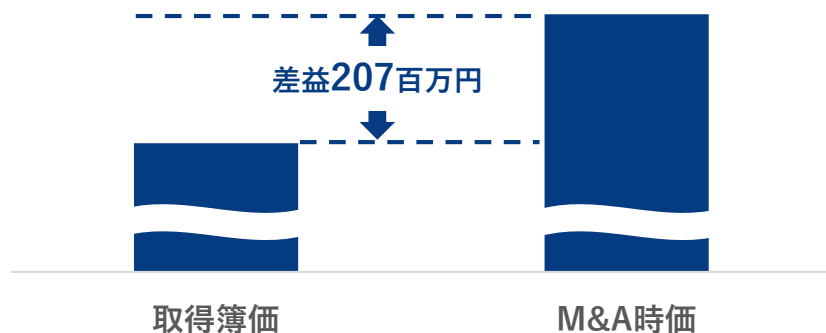
当社は善光総研の子会社化に伴い、段階取得に係る差益207百万円を特別利益として計上しました。一方で、企業結合日時点における適正な評価額との差額である207百万円をのれんの減損損失として特別損失に計上しました。なお本減損は当社株価上昇に伴う会計上の取得価額の増加によるものであり、善光総研の事業価値の低下によるものではありません。

特別利益

+207百万円

段階取得に係る差益

当社の連結子会社であるカイカフィナンシャルホールディングスが、追加取得以前から保有していた善光総研株式について、追加取得時点の時価により、再評価を行ったことによるものです。



特別損失

▲207百万円

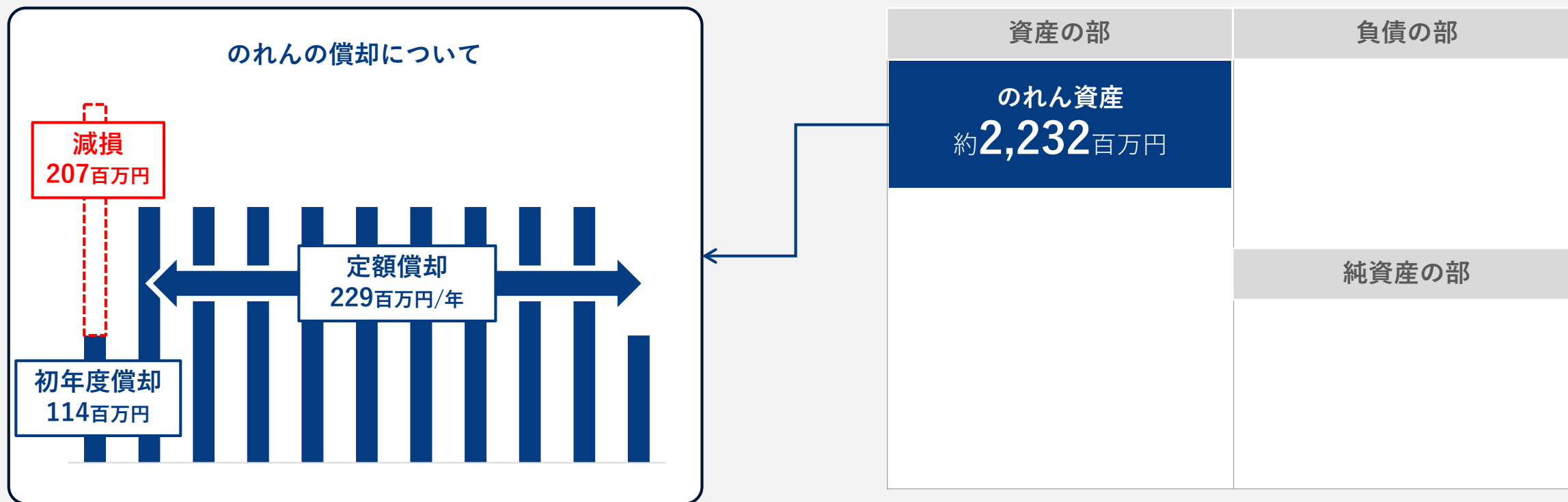
減損損失

株式交付による子会社化の決定公表後の当社株価の上昇により、善光総研の株主に交付される当社株式の価値が増加し、企業結合日時点における適正な評価額との差額を減損損失として計上したものです。



善光総研のM&Aに伴うのれんの計上と償却について

善光総研の子会社化に伴い発生したのれんは、207百万円の減損後、中間期末に2,289百万円を計上しました。第3四半期より償却を開始し、57百万円の償却費を計上した結果、第3四半期末の残高は2,232百万円となりました。



※ 当該のれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

株式会社フィスコの持分法適用関連会社化と減損の発生について

当社は業務提携強化に伴う株式の追加取得等を踏まえ、株式会社フィスコを持分法適用関連会社としました。今後、フィスコとの提携を一層強化することで業務拡大を図ってまいります。なお、持分法の適用開始時に投資差額の一部を減損し、持分法による投資損失179百万円を計上しました。

経緯と目的

持分法適用関連会社化に至る経緯

予てより事業連携強化を目的として、
段階的にフィスコ株式を取得

↓

役員の兼務等による一層の連携強化

↓

2026年7月29日の追加取得により、
持分法適用関連会社に

業務提携の目的



**Fiscoの
顧客基盤**

上場企業約500社
の営業基盤



**顧客基盤を活かした
営業体制の強化**

DX・セキュリティ
ソリューションの営業連携



**シナジーの
最大化**

新サービス開発
を検討

減損の発生について

過去の段階的な株式取得により、
のれん相当額の投資差額が発生

↓

持分法の適用開始時点で、フィスコ株式の
時価評価額が帳簿価額を下回った

↓

投資差額（のれん相当額）の一部を減損

≡

持分法による投資損失を営業外費用として計上

▲179百万円

※ 当該投資損失は、持分法の適用開始時点における同社株式の時価評価に基づき認識したものであり、今後の同社株式の時価の変動等により、追加の減損が発生する可能性があります。

2026年10月期 第3四半期概要

Q3 FY2026 Overview

01

02

03

04

05

06

2026年10月期 第3四半期 累計業績ハイライト

売上高

前年同期 3,840百万円

4,693百万円



営業利益

前年同期 66百万円

111百万円



四半期純利益※

前年同期 588百万円

▲126百万円

※ 親会社株主に帰属する四半期純利益

連結業績

- IoT関連事業および介護DX事業の連結寄与により、売上高は前年同期比22.2%増の4,693百万円、営業利益は同68.9%増の111百万円
- のれん償却費等の影響を除いた収益力を示す補足指標として、調整後EBITDAを開示。前年同期比186.7%増の199百万円

ITサービス事業

- 金融・非金融分野は概ね横ばい。DXソリューションサービスのコンサルティングは堅調も、大型SI案件の未受注等により売上高は前年同期を下回る
- 生成AIを活用した「AI駆動型開発」サービスを開始し、開発の生産性・品質向上を推進

金融サービス事業

- Zaifと暗号資産ギフトサービスの共同検討を開始。ビットコインの売却損等により損益面では苦戦する一方、新たな活用機会の創出に取り組む

IoT関連事業

- 売上高511百万円、営業利益28百万円を計上。IoT通信技術とDX・ブロックチェーン技術を組み合わせたソリューション事業への進化を推進

介護DX事業

- 善光総研の2026年3～5月の業績を反映し、売上高449百万円、営業利益136百万円を計上

2026年10月期 第3四半期 連結業績サマリー

善光総研の子会社化に伴い、第3四半期よりのれん償却費の計上を開始しました。資金流出を伴わないのれん償却費等の影響を除き、実質的な収益力をより適切に伝えるため、営業利益に減価償却費とのれん償却費を加算した「調整後EBITDA」を補足指標として開示しております。

(百万円)	25/10期 3Q実績	26/10期 3Q実績	前年同期比		通期見通し	進捗率
売上高	3,840	4,693	+853	+22.2%	6,166	76.1%
売上総利益	637	1,014	+376	+59.1%	-	-
売上総利益率	16.6%	21.6%	-	-	-	-
営業利益	66	111	+45	+68.9%	107	104.3%
営業利益率	1.7%	2.4%	-	-	-	-
経常利益	74	▲12	▲86	-	107	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	588	▲126	▲715	-	91	-
調整後EBITDA	69	199	+129	+186.7%	-	-

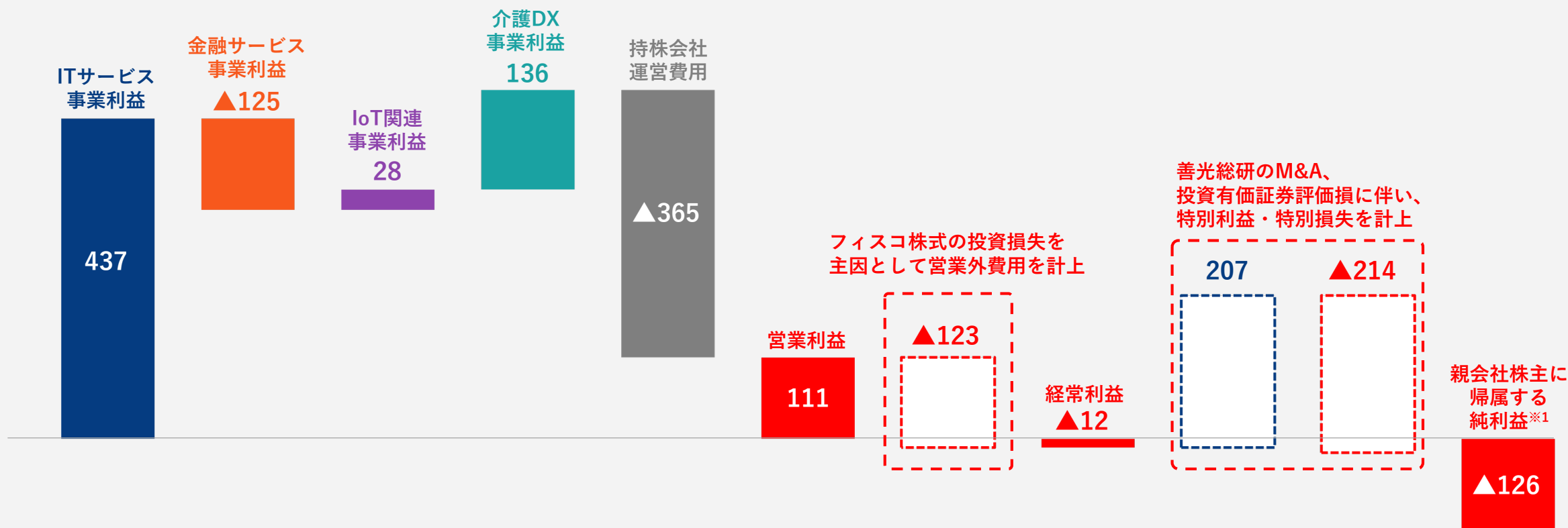
・ 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2026年10月期第3四半期現在のものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・ 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載は控えください。

各利益の要因について

IoT関連事業および介護DX事業が連結に加わったことにより、各利益に寄与した結果、営業利益は111百万円となりました。一方、フィスコを持分法適用関連会社化したことを主因として、▲123百万円の営業外損益を計上した結果、経常利益は▲12百万円となりました。さらに第二四半期に計上した善光総研のM&Aにかかる特別損益の計上の結果、純利益は▲126百万円となりました。

(百万円)

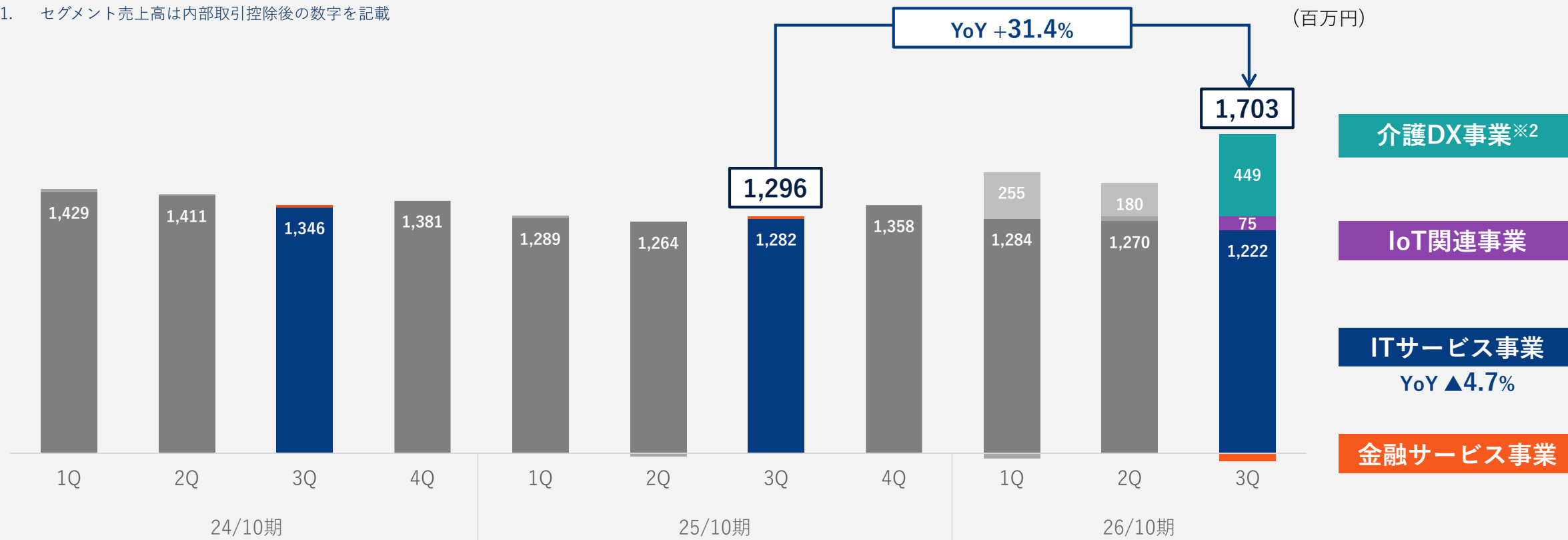


1. 経常損益に特別損益、法人税等および非支配株主に帰属する損益を反映して算出

四半期毎の連結売上高推移※1

当第3四半期より介護DX事業が連結に加わり、売上高は前年同期比31.4%増の1,703百万円となりました。ITサービス事業は、既存の暗号資産関連プロジェクトの縮小影響を、AI・ステーブルコイン関連の新規プロジェクトで補いきれず減収となりました。一方、IoT関連事業はグループシナジーを活かした事業展開を進め、堅調に推移しました。

1. セグメント売上高は内部取引控除後の数字を記載



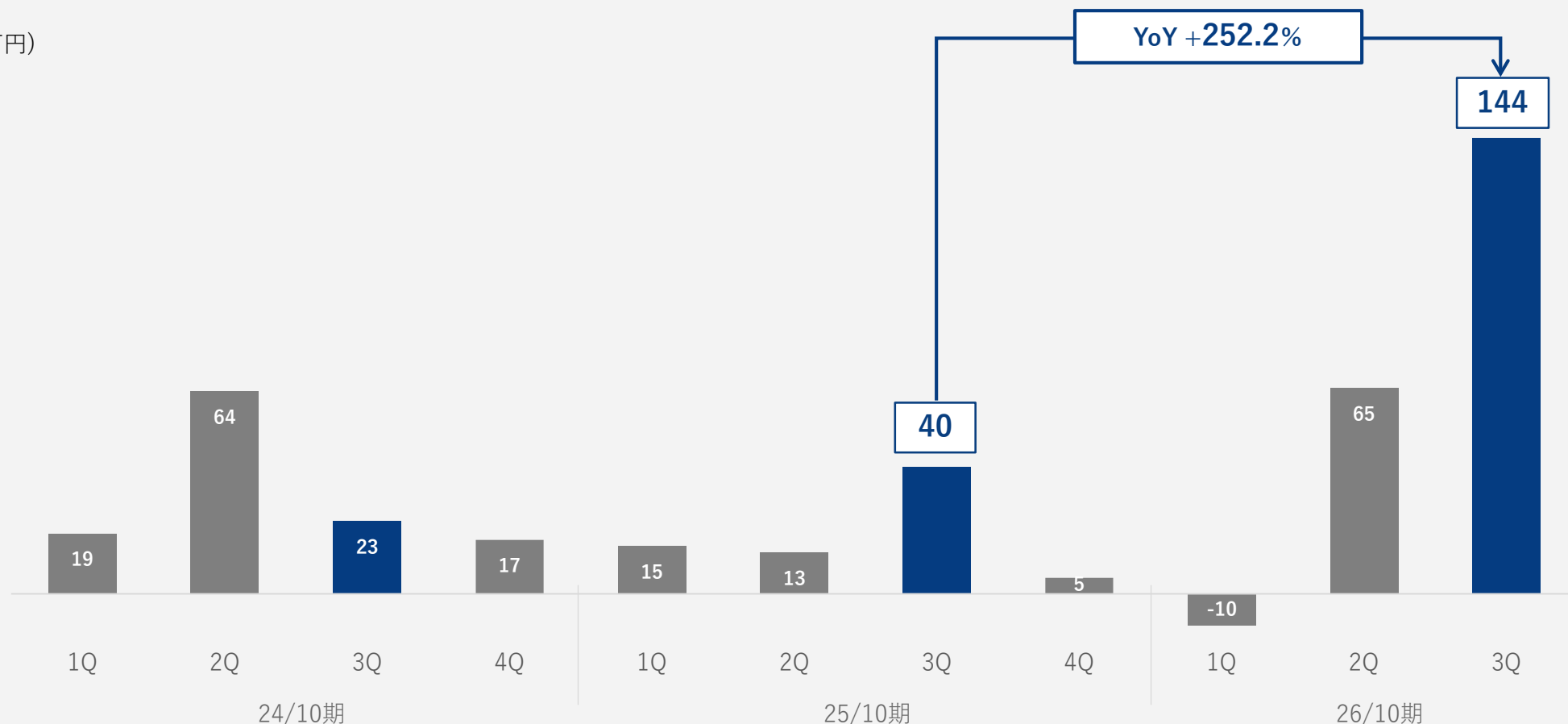
1. 内部取引控除後の数値を記載

2. 介護DX事業は、主要取引先である自治体等の契約手続・検収が年度末の3月に集中する傾向があります。このため、善光総研の売上高は第3四半期に大きく偏重する傾向にあり、2026年3～5月分を反映する当第3四半期累計期間に、売上高を含む業績が集中する傾向があります。

四半期毎の調整後EBITDA※1の推移について

当社は実質的な収益力をより適切に伝えることを目的として、当第3四半期より営業利益に減価償却費とのれん償却費を加算した「調整後EBITDA」を補足指標として開示することとしました。なお、善光総研の子会社化に伴うのれん償却費の計上を当第3四半期より開始しております。

(百万円)

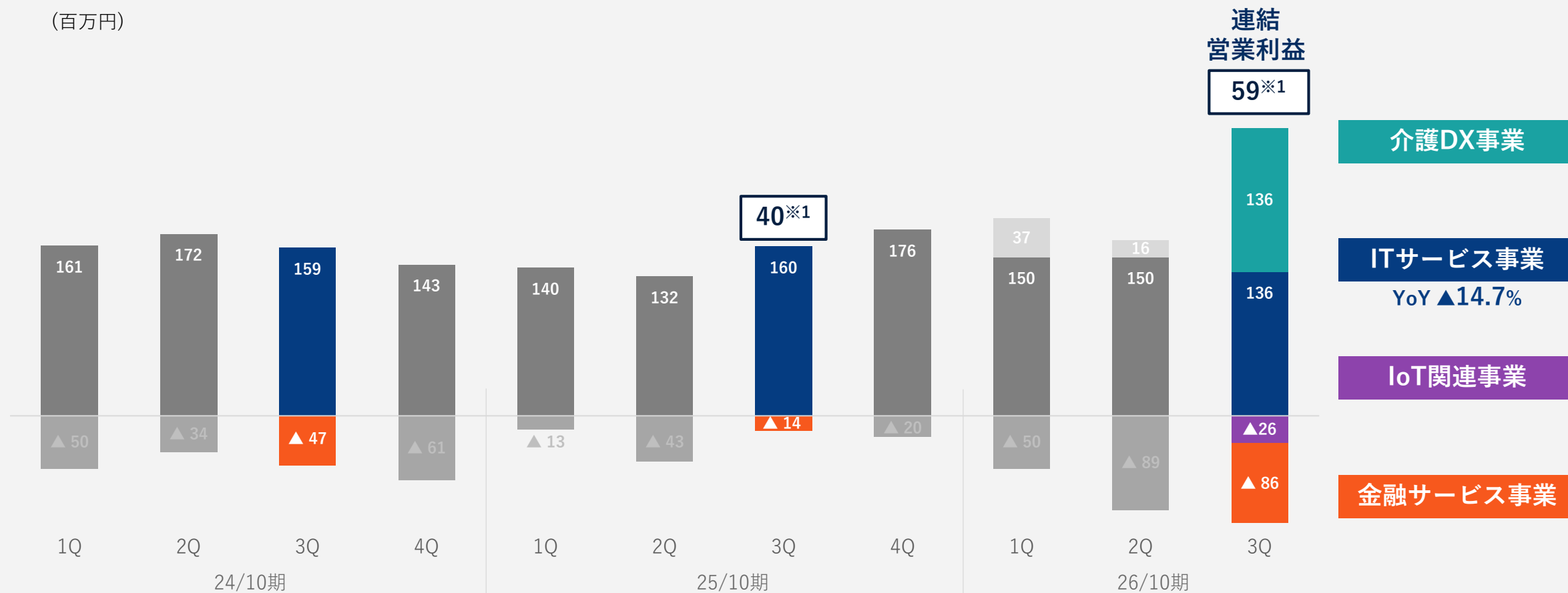


1. 増加率は端数処理前の数値で算出。調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費。

四半期毎のセグメント損益の推移

ITサービス事業は、技術者・ビジネスパートナー要員の確保難や暗号資産関連プロジェクト縮小の影響により減益となりました。IoT関連事業は部品価格の高騰等、金融サービス事業は暗号資産の売却損等により低調に推移しました。一方、当四半期より連結した介護DX事業が136百万円の利益を計上し、連結営業利益を押し上げました。

(百万円)



1. 持株会社の運営費用を主とする全社費用を含む値を掲載しております。

連結貸借対照表の推移について

善光総研の連結子会社化により、第3四半期末の総資産は6,224百万円、純資産は5,562百万円となりました。のれんは第3四半期より償却を開始し、期末残高は2,232百万円となりました。負債は前期末比14百万円減少の662百万円、自己資本比率は88.3%となりました。

(百万円)	25/10期末	26/10期 3Q	前期末比		25/10期末	26/10期 3Q	前期末比
資産の部	4,287	6,224	+1,936	負債の部	676	662	▲14
内 現預金	639	1,220	+580	内 有利子負債	-	-	-
のれん	-	2,232	+2,232	純資産の部	3,611	5,562	+1,950
				内 株主資本	3,429	5,394	+1,964
				自己資本比率	84.2%	88.3%	-

2026年10月期 通期業績見通し

FY2026 Full-Year Outlook

01

02

03

04

05

06

2026年10月期 通期業績見通しサマリー

善光総研およびIoT関連事業の連結寄与による業績の押し上げ効果と、フィスコの持分法適用に伴う投資損失179百万円の計上等を総合的に勘案し、通期連結業績予想を据え置いております。今後の業績動向への影響を引き続き精査し、修正の要否を含め、必要に応じて速やかに開示いたします。

(百万円)	25/10期 実績	26/10期 業績見通し	前期比	
売上高	5,195	6,166	+970	+18.7%
営業利益	70	107	+36	+52.9%
営業利益率	1.4%	1.7%	-	-
経常利益	76	107	+30	+40.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	166	91	▲75	▲45.2%

2026年10月期 業績見通しの根拠

2025年10月期 業績動向

連結

- 売上高はITサービス事業において新規事業であるDXソリューションサービスが伸長した一方、従来事業が軟調に推移した結果、減収。
- 当期純利益は特別利益の計上により大幅な増益。

ITサービス事業

- 従来事業は高収益案件の選別を積極的に進めた結果、減収。
- DXソリューションサービスは想定どおり堅調に推移したものの、一部ハードウェアの納品遅延により、売上計上の期ずれが発生。

金融サービス事業

- NFT漫画プロジェクトにおける事例拡大を通じて、NFTのユースケース拡大を実現。

IoT関連事業

(2025年10月に子会社化)

介護DX事業

(2026年2月に子会社化)

2026年10月期 業績見通し

- ソリューション売上高比率の拡大によりビジネスモデルの転換を図る。
- 売上高はITサービス事業におけるDXソリューションサービスのさらなる拡大に加え、株式会社ネクスの連結組み入れにより、増収を見込む。
- 当期純利益は前期の投資有価証券売却益の反動等により、減益を見込む。

- 前期に大きく成長したDXソリューションサービスのさらなる売上高の拡大を目指す
- 営業体制の強化により新規の高収益案件の獲得を図るとともに、既存顧客からの受注拡大を目指す。

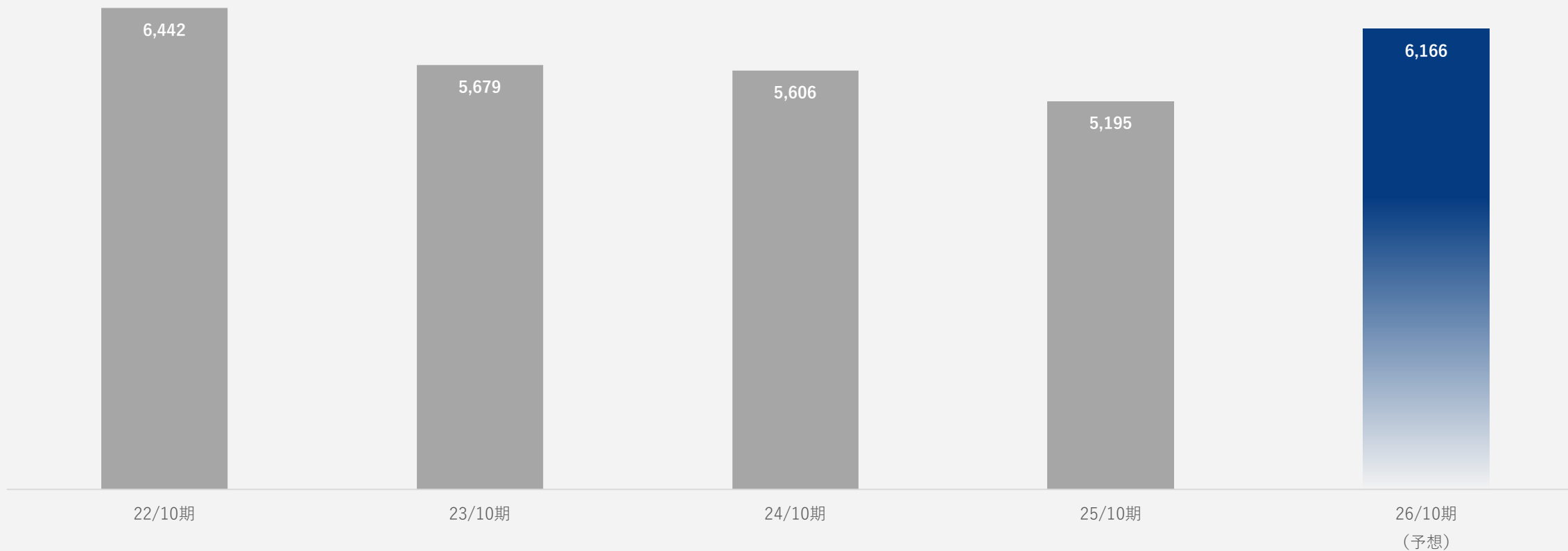
- 引き続き成長投資フェーズと位置付け。
- NFT漫画プロジェクトのさらなる事例拡大を進めるとともに、新たなNFTユースケースの創出を図る。

- ITサービス事業の既存顧客に対するクロスセルを起点とした販路拡大を通じて、中期的な業績成長を目指す。
- ソフトウェアに強みを持つCAICAグループとのシナジーを最大限に活用し、新たな製品開発を推進。

- ITサービス事業、IoT関連事業とのシナジーを活用し、スマート介護プラットフォーム「SCOP」の次世代化、AIを活用したデータ分析によるコンサルティングの拡大を目指す。
- 行政・現場・研究を結ぶ中核企業として、全国の介護事業者や自治体などに向けて、DX支援を進める。

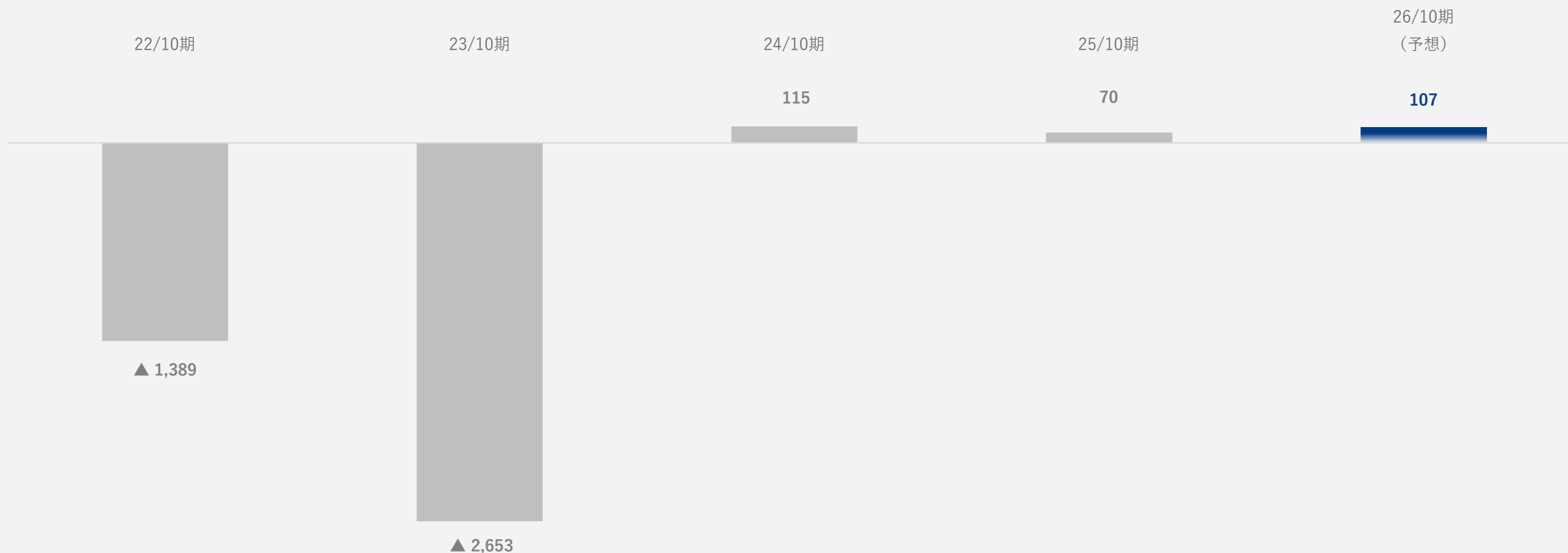
通期売上高の推移と要因

2026年10月期の通期売上高は6,166百万円を見込んでおります。善光総研およびIoT関連事業の連結寄与による業績の押し上げ効果と、フィスコの持分法適用に伴う投資損失等を総合的に勘案し、現時点では通期連結業績予想を据え置いております。



通期営業利益の推移と要因

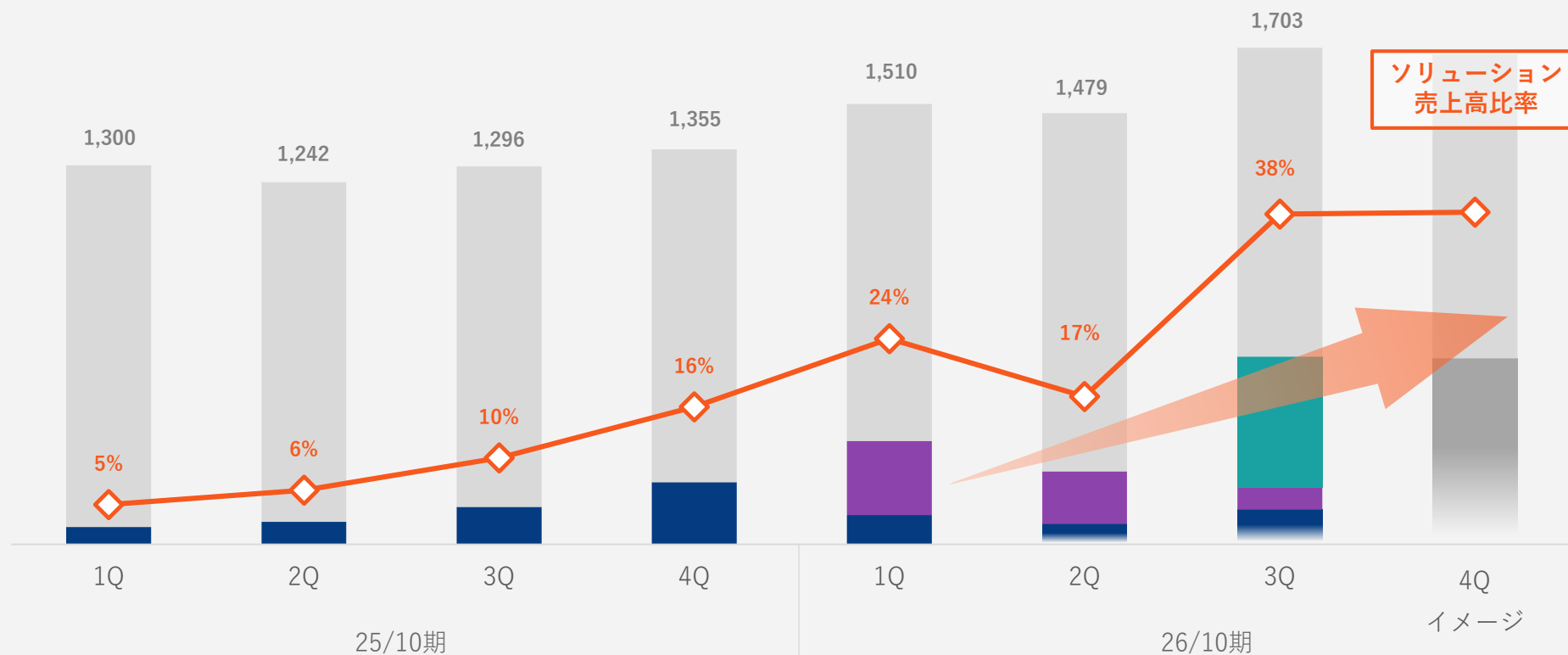
2026年10月期の通期営業利益は107百万円、前期比52.9%増を見込んでおります。善光総研およびIoT関連事業の連結寄与等を踏まえ、現時点では通期連結業績予想を据え置いております。今後の業績動向への影響については、引き続き精査してまいります。



- 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2026年10月期第3四半期現在のものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載は控えください。

四半期ごとの連結売上高に対するソリューション売上高比率の拡大について

当社はDXソリューションの拡大を通じ、従来の労働集約型からソリューション型へのビジネスモデル転換を推進しています。今期初よりIoT関連事業のネクスが連結に加わり、さらに当第3四半期からは善光総研の介護DX事業を損益計算書に連結。事業領域の拡大に伴い、連結売上高に占めるソリューション型事業の売上比率は一段と高まる見込みです。



ソリューション
売上高比率

当第3四半期より、
善光総研の介護DX事業
を損益計算書に反映した
ため、大幅に増加

IoT関連事業

DXソリューションサービス

トピックス

Topics

01

02

03

04

05

06

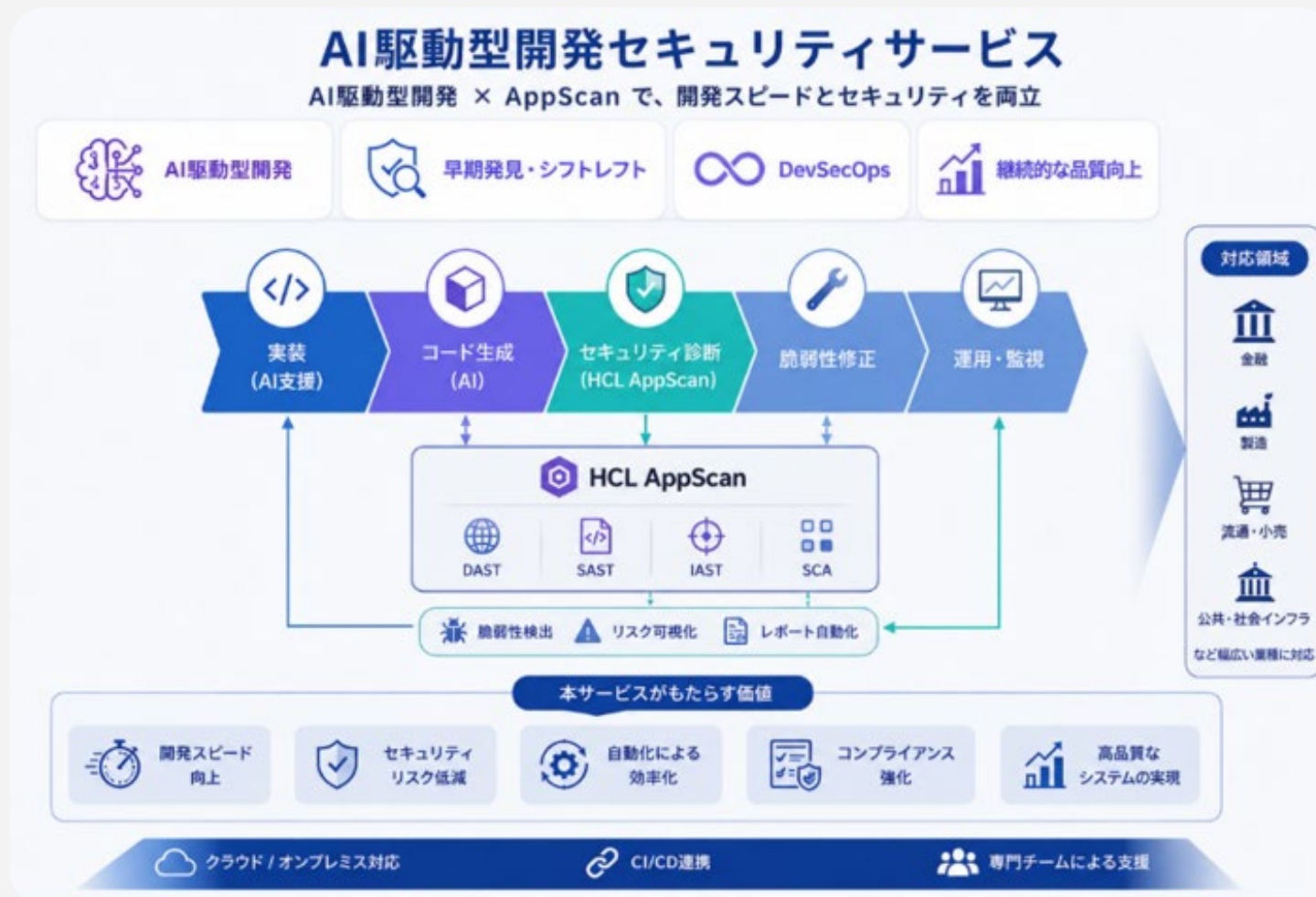
セキュリティ事業の情報発信を強化、コーポレートサイトをリニューアル

DX・セキュリティソリューション事業の承継を契機に、コーポレートサイトをリニューアル。システム開発50年・導入企業300社超の実績をはじめ、HCL AppScanやゼロトラスト、BCP関連サービスを分かりやすく紹介。情報発信の強化を通じて認知拡大を図り、DX・セキュリティ事業のさらなる拡大につなげていきます。



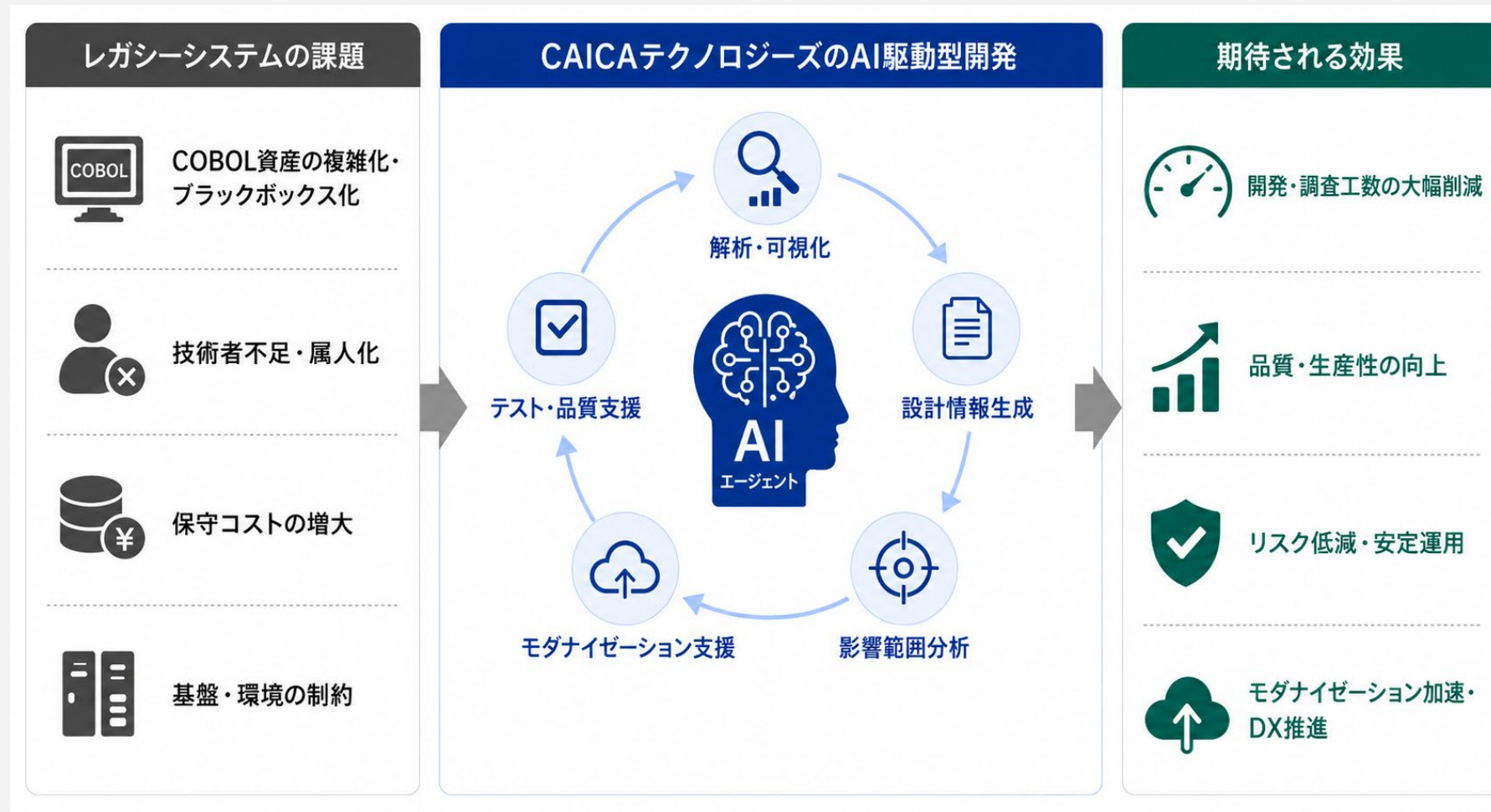
「AI駆動型開発セキュリティサービス」の提供を開始

CAICA DIGITALは、AI開発と「HCL AppScan」による脆弱性診断を融合した「AI駆動型開発セキュリティサービス」の提供を開始。AIによる開発効率向上とセキュリティリスクの早期発見により、安全性と開発スピードを両立。金融・製造・流通・公共など、大規模システム開発やDXを推進する幅広い分野への展開を進めます。



AI駆動型開発をCOBOLモダナイゼーションへ拡大

CAICAテクノロジーズは、AI駆動型開発をCOBOLを中心とするレガシーシステムのモダナイゼーションへ拡大。AI駆動型開発 × COBOL実績50年 × 経験豊富な技術者を融合し、解析・設計から改修・テストまで一気通貫で提供。すでに複数の顧客案件で活用を開始し、金融・公共・製造業など幅広い業界への展開を進めます。



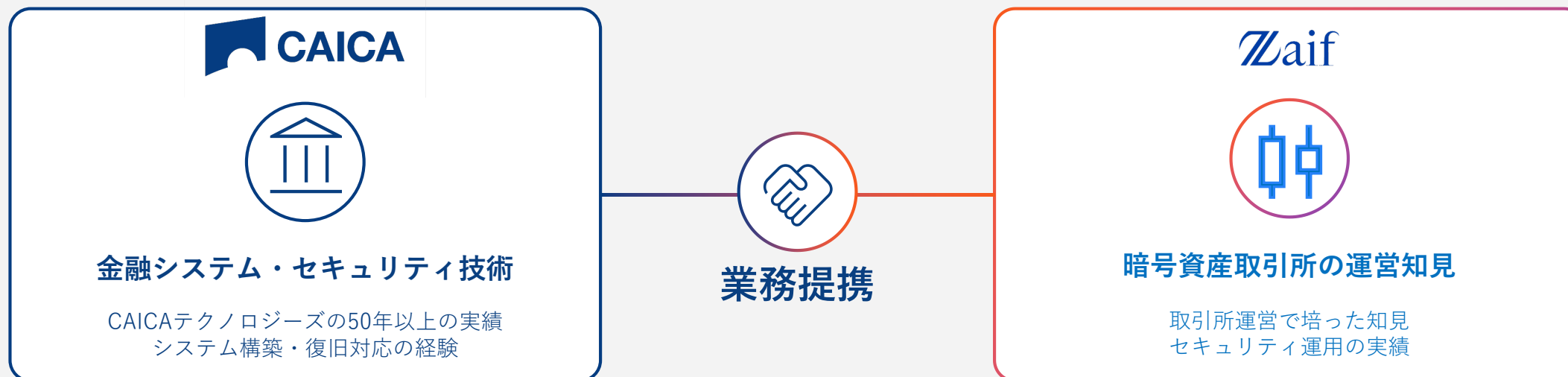
AI関連資格取得率75%に到達！

AI駆動型開発を支える人的基盤の強化に向け、ITサービス事業に関わる全社員を対象にAI関連資格の取得を推進。2026年7月31日時点で取得率75.0%に到達しました。資格取得による知識・リテラシーの向上に加え、提案資料作成、設計、コードレビュー、脆弱性診断など、実務におけるAI活用も着実に拡大しています。



Zaifとセキュリティ分野における業務提携を開始

CAICA DIGITALは、Zaifとセキュリティ分野における業務提携に合意。金融システム開発50年以上の実績とZaifの暗号資産取引所運営の知見を融合し、セキュリティを高度化。共同研究や脆弱性診断などを通じ、金融・暗号資産分野における新たなセキュリティ需要の獲得を目指します。



共同で取り組むテーマ


共同技術研究
脅威・攻撃手法を研究


評価・強化
脆弱性診断・復旧体制の整備

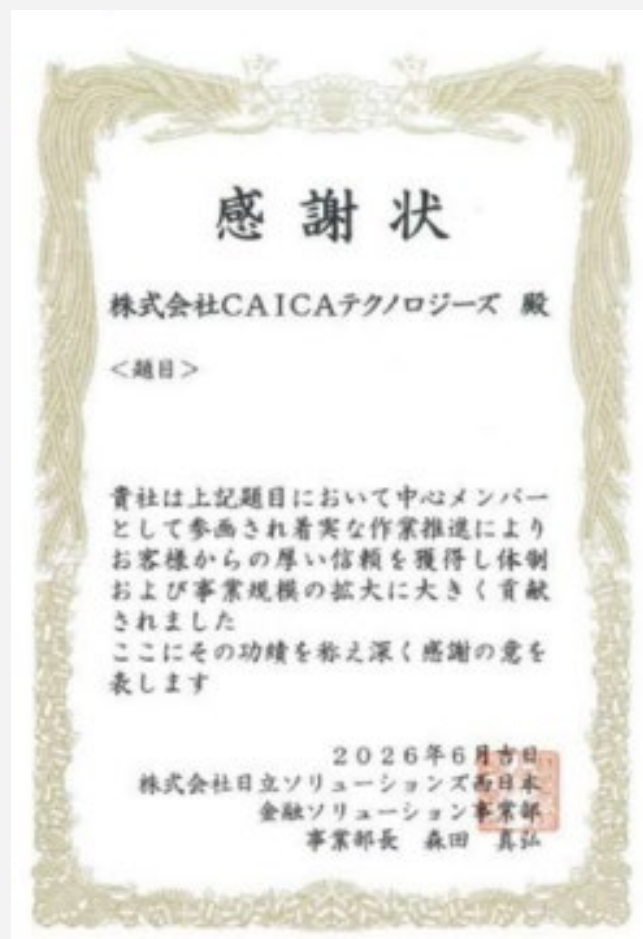

管理態勢の高度化
規制移行を見据えた対応


実証・検証
取引所運営の知見を活用

金融・暗号資産分野のセキュリティ高度化を目指す

日立ソリューションズ西日本より感謝状を受領

CAICAテクノロジーズは、日立ソリューションズ西日本より、パートナー企業としての高い功績が評価され感謝状を受領。長年にわたる金融事業領域の開発プロジェクトへの貢献と、高い品質が評価されました。今後も金融システム開発で培った知見を活かし、お客様の課題解決に貢献してまいります。



AI 駆動型開発（AI Driven Development） サービス提供開始

最先端の生成 AI を活用した「AI 駆動型開発（AI Driven Development）」を通じて、開発現場の課題解決とビジネス成長の加速を支援します。AI駆動型開発は単なる生成 AI ツールの活用ではなく、長年の開発実績に基づく業務知識・技術ノウハウを組み合わせ、高品質な開発支援サービスです。

CAICAテクノロジーズの特徴・強み

観点	★ CAICA テクノロジーズ	コンサル	大手SIer 元請け	二次請け 以下	AI専門 企業
生成AI 活用	● 全工程で活用	△ 一部活用	● 自社製品AI化	× ほぼ未対応	● 強み
基幹系 開発構築実績	● 50年超の実績	△ 知見あり	● 実績豊富	△ 部分的	× ほぼなし
提供先企業	● 中小～大企業	● 大企業中心	● 大企業中心	△ 中小企業 中心	△ スタートアップ 中心
対応範囲	● 要件定義～ 運用保守	● 上流中心	● 上流・運用 保守中心	△ 開発中心	△ 開発・PoC 中心
コスト	● リーズナブル	× 高コスト	× 高コスト	● 低コスト	△ 中～高コスト

● = 対応可・強み △ = 部分対応・限定的 × = 非対応・弱み

※本表はCAICAテクノロジーズの業界経験および一般的な市場傾向に基づく概念的な比較です。個社の状況により異なる場合があります。

CAICA テクノロジーズ、DID/VC アプリの社内試行を開始

ITサービス事業のCAICAテクノロジーズは、分散型ID（DID）および検証可能な資格情報（VC）を活用したデジタルIDアプリの社内試行を開始しました。社員の表彰実績、デジタル名刺、技術経歴などをVCとして管理し、自己主権型IDを基盤とした次世代社内DXの実証を進め、第一段階の検証を完了いたしました。

DID/VCアプリ 社内試行を完了

DID発行・VC付与・確認フローの有効性を確認し、社外展開に向けた知見を蓄積



試行参加者数
13名



DID発行件数
15件以上



VC付与件数
26件



VC確認成功率
100%

STEP 1

DID発行



3方式に対応
• did:key
• did:ethr
• did:web

STEP 2

VC発行・付与



管理者がテンプレートを作成し、
社員のDIDにVCを付与

STEP 3

VC確認



社員が自身のVCを
一覧表示・詳細確認

STEP 4

同期・オフライン対応



クラウドとローカルを同期し、
オフラインでも利用可能



主な検証事項を
すべて確認

✓ 複数DID方式での発行・管理
✓ VCテンプレート作成・発行・付与フロー

✓ VCの取得・表示・確認
✓ クラウド・ローカル同期／オフライン対応

今後の展開



社内ユースケースの拡充
社内表彰・デジタル名刺・
経歴管理・人事評価・社内連絡など



社外展開に向けた検証
実証で得た知見をもとに、
実用性・運用性を検証



ソリューション展開
企業・金融機関・自治体向けに
DID/VCソリューションを展開



デジタルトラストの実現
信頼性の高いデジタルID基盤で
安心・安全な社会の実現に貢献

ステーブルコイン基盤の開発を完了、M2M基盤と統合し商用化フェーズへ

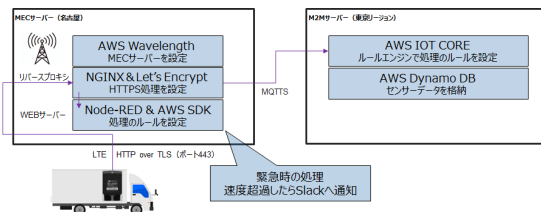
フェーズ2では、IoTデバイスのデータを起点に、人の操作を介さないステーブルコインの自動決済を実現。フェーズ3では、セキュリティ・発行体管理機能等を整備し、ステーブルコイン基盤とM2M基盤の本格統合を完了しました。PoCから商用化フェーズへ移行し、IoT×Web3を活用した新たな決済・データ流通サービスの展開を進めます。



Web3型IoT統合ソリューション構想

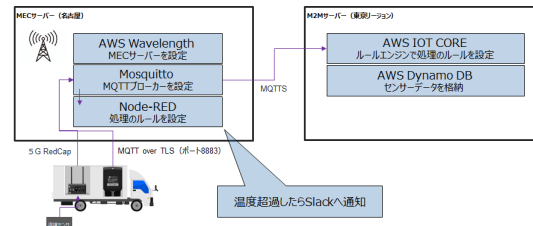
当社はデータの信頼性担保から、自律的な「価値の交換」を目指し事業創出を行ってまいりました。これまでの実証実験（PoC）の成果を統合し、ステーブルコイン基盤によるM2M決済の実現を目指します。

リアルタイム通信とクラウド連携



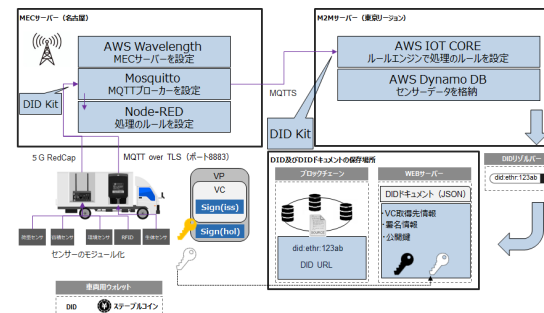
M2M (Machine to Machine) / MEC (Multi-access Edge Computing) 基盤とOBD II デバイスとの動作検証を実施。AWS WavelengthやNode-RED等を活用し、リアルタイム通信処理とクラウド連携の安定性を確認しました。

5G RedCap/MQTTによる通信高度化



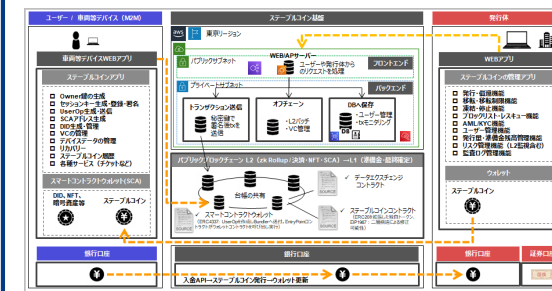
5G RedCapおよびMQTTプロトコルに対応させ、環境センサデータのリアルタイム処理を検証。物流・倉庫環境における温度異常アラート等のM2M最適化を実現しました。

分散型ID (DID) による認証統合



全車両・デバイスにDIDを付与し、ブロックチェーン上での認証連携を実施。中央管理者に依存しない「自己主権型ID (SSI)」による、企業間を跨いだ信頼基盤を確立しました。

ステーブルコイン基盤PoCへ移行



DIDに紐づく車両データをVC (検証可能証明)・NFT化し、独自発行のステーブルコインで対価を支払う「M2M決済」の実証段階へ進みます。これにより自律的な「機械経済圏」のインフラを構築します。

商品・IPの価値を拡張する「商品NFT化ソリューション」を提供開始

CAICAテクノロジーズが、企業の商品・IP・コンテンツを活用したNFTソリューションの提供を開始。NFT発行から販売ページ構築、EC連携、物理NFTカード、運用までをワンストップで提供します。「INO Fine」との連携により、販売・プロモーション・ファンマーケティングへ展開し、**新たな顧客接点と収益機会の創出**を目指します。



NFT漫画プロジェクト作品一覧

金融サービス事業の新サービスNFT漫画プロジェクトは、第12弾までの企画を発表しております。今後も継続して新しい作品の誘致を進め、INO Fineの認知向上を図るとともに、取扱高の向上に努めます。

電子漫画出版決定!	NFT漫画出版決定!	電子漫画出版決定!	電子漫画出版決定!
プロジェクトページへ	プロジェクトページへ	プロジェクトページへ	プロジェクトページへ
プロジェクトページへ	電子書籍出版決定!	プロジェクトページへ	プロジェクト始動

特設ページはこちら

<https://zaif-ino.com/media/nft-manga/>

INO Fine GOODS STORE オープン

NFT漫画プロジェクトでは、予てより特設サイトにてグッズ販売を行ってまいりました。プロジェクトの進展に伴い参加作家・グッズの種類が増加したことを受け、すべてのグッズを一覧でご覧いただける公式オンラインストアとして「INO Fine GOODS STORE」を新たに開設いたしました。



The graphic features a dark blue background with several items: a white t-shirt with a manga-style illustration, a tote bag with a similar design, a small square pouch, and another white t-shirt with a different manga illustration. The text 'INO Fine GOODS STORE' is prominently displayed in the center, with 'INO' in blue and 'Fine' in pink. Below it, the text 'GOODS STORE' is in white. To the right of the store name, there is a small text block: 'ここでしか手に入らない' (Available only here), 'NFT漫画プロジェクト限定' (Limited to NFT manga project), and '作品グッズをチェック' (Check out the work goods) followed by a green checkmark icon. At the bottom, the date '2026.05.13 (水)' is written in large white characters, followed by the text 'NFT漫画プロジェクトの作家描き下ろしグッズを集めた公式オンラインストアを公開' (Official online store featuring artist-drawn goods for the NFT manga project is open).

INO Fine
GOODS STORE

ここでしか手に入らない
NFT漫画プロジェクト限定
作品グッズをチェック 

2026.05.13 (水) NFT漫画プロジェクトの作家描き下ろし
グッズを集めた公式オンラインストアを公開

NFT漫画プロジェクト「NFT MANGA PROJECT in AFRICA」開始

NFT事業の取り組みとして、アフリカのクリエイターと連携した「NFT MANGA PROJECT in AFRICA」を開始しました。本プロジェクトではNFT漫画作品の販売に加え、作品IPを活用したデジタルコンテンツやグッズ展開を推進します。NFTを活用したクリエイター支援とコンテンツビジネスの創出を通じ、グローバルなWeb3コンテンツ市場の開拓を目指します。



▶特設サイトはこちら
<https://zaif-ino.com/media/nft-manga-africa-lp/>

審査制NFTローンチパッド「INO Fine」へブランド刷新

当社子会社カイカフィナンシャルホールディングスが運営する審査制NFTローンチパッド「Zaif INO」は、サービス名称を「INO Fine」へ変更しました。NFT販売に加え、クリエイターのインキュベーションやグローバルプロジェクト支援など事業領域を拡大しており、ブランド刷新を通じてWeb3時代における新たな価値創出プラットフォームとしてさらなる成長を目指します。

INFORMATION

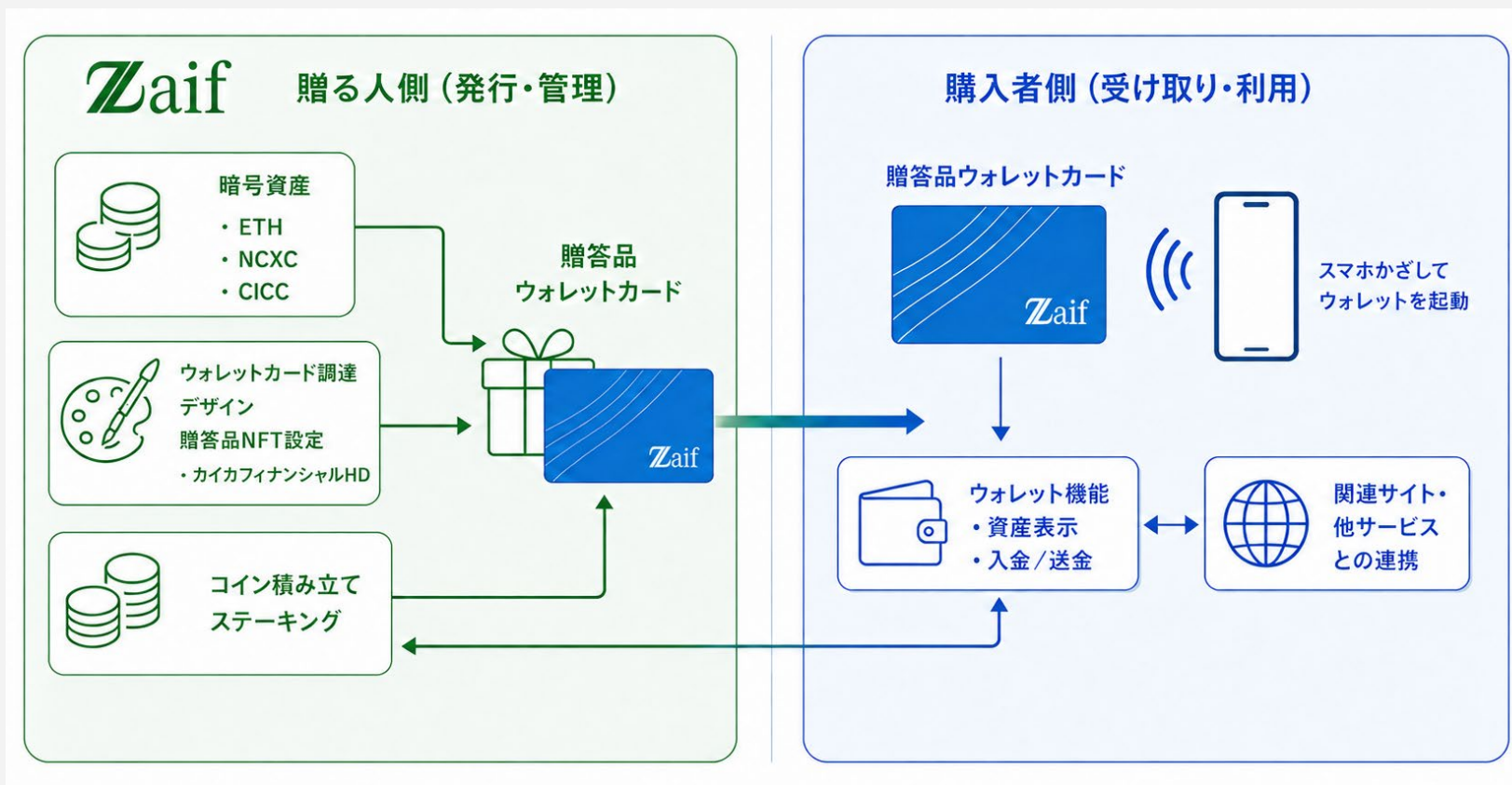
サービス名称変更のお知らせ

2026年2月13日(金)

Zaifと暗号資産を「贈る」新たなギフトサービスの共同検討を開始

カイカフィナンシャルホールディングスは、Zaifと共同で「贈答品NFTカード（仮称）」の提供に向けた検討を開始。スマートフォンでカードを読み取ることで、NFTや暗号資産を手軽に受け取れる仕組みを想定。さらに、対応資産ではステーキング報酬を受け取れる設計も検討しています。



NFTカード活用事例の展開

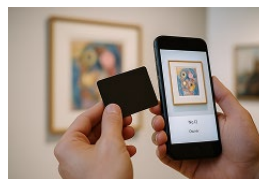
当社はWeb3のパイオニアとして、NFTを活用した多様なソリューションを展開してきました。これまでに蓄積したノウハウを活かし、新たにNFTカードを活用したサービスの提供を開始しました。本サービスは、NFTカードを通じてファンとの接点を強化し、ファンマーケティングの高度化・加速を支援するものです。

ラグジュアリー



高級時計やバッグに同梱されたカードをタッチするだけで正規品かどうかわかる。転売時も一瞬で権利移転。

アート&コレクション



作品画像とエディション番号をスマホ表示。安心して売買でき、作家にも収益が循環。

保証・公的書類



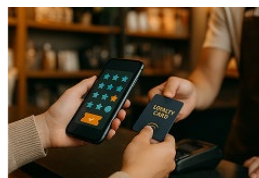
車両所有権や家電保証をカードに集約。名義変更・整備履歴の更新もスマホで完結。

会員制サービス



レストランやホテルで提示すれば即チェックイン。行けなくなった会員権は譲渡して資産化。

ロイヤリティ/小売



ユーザーが来店したり購入スタンプを集めるとクーポンが自動発行。お客様に選ばれるブランドへ。

イベント&チケット



入場ゲートはワンタッチ。カードに限定ライブ映像が自動追加され"デジタル記念品"に。

自治体との連携をさらに拡大

2026年度も自治体との連携を拡大し、直近では新たに新宿区・荒川区・あきる野市・港区・東久留米市・西東京市・栃木県・小平市の8自治体から事業を受託。全国28自治体32地域・累計2,000事業所超への導入支援で培ったノウハウを活用。自治体との連携を通じ、「ケアプランデータ連携システム」の普及と介護DXの社会実装を加速します。



東京都新宿区「ケアプランデータ連携システム導入支援事業」を受託



東京都荒川区「ケアプランデータ連携システム導入・活用支援業務」を受託

「ケアプランデータ連携システム導入サポート業務」を受託

- ・ 東京都港区
- ・ 東京都西東京市
- ・ 東京都小平市
- ・ 栃木県

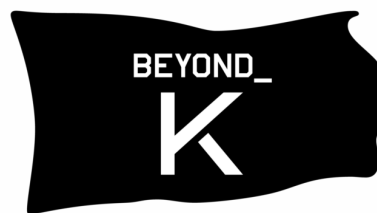
「ケアプランデータ連携システム活用促進支援事業」を2年連続受託

- ・ 東京都東久留米市
- ・ 東京都あきる野市



ともに、生きる。
江戸川区

江戸川区にて「ケアプランデータ連携システム」導入率62%を達成



きたいを超える東京北区

「ケアプランデータ連携システム活用促進事業」を2年連続受託



「ケアプランデータ連携システム活用促進事業」を2年連続受託

厚生労働省「デジタル中核人材養成研修」を受託、全国2,300名へ規模拡大

善光総研は、厚生労働省の「令和8年度 デジタル中核人材養成研修」の事業受託者として、全国規模の人材育成を推進。2026年度は定員を前年度の**1,500名から2,300名へ大幅に拡大**し、オンラインで全10セットの研修を実施します。介護現場の業務改善や介護テクノロジー活用を担うデジタル中核人材の育成を通じ、介護DXの普及を加速します。

主 催 : 厚生労働省
事業受託者 : 株式会社善光総合研究所
運営事務局 : 公益社団法人日本介護福祉士会



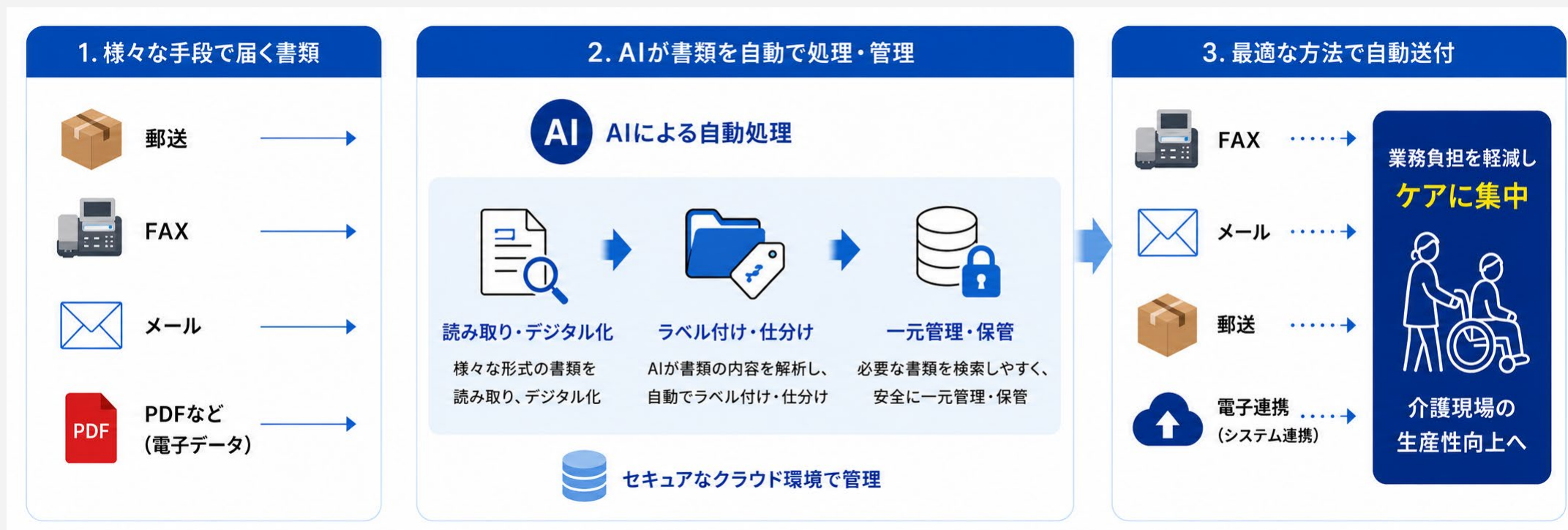
DIGITAL
TECHNOLOGY

デジタル中核人材養成研修

参加
無料

AIを活用した医療・介護向け「連携ジョシュ」の実証実験を開始

善光総研は、善光会・ジョシュと連携し、AIを活用した医療・介護向け「連携ジョシュ」の実証実験を実施。郵送・FAX・メールなどに分散する書類送付業務を一元化し、業務効率化と介護現場への適合性を検証。現場のフィードバックをサービス改善につなげ、介護現場への円滑な社会実装を目指します。



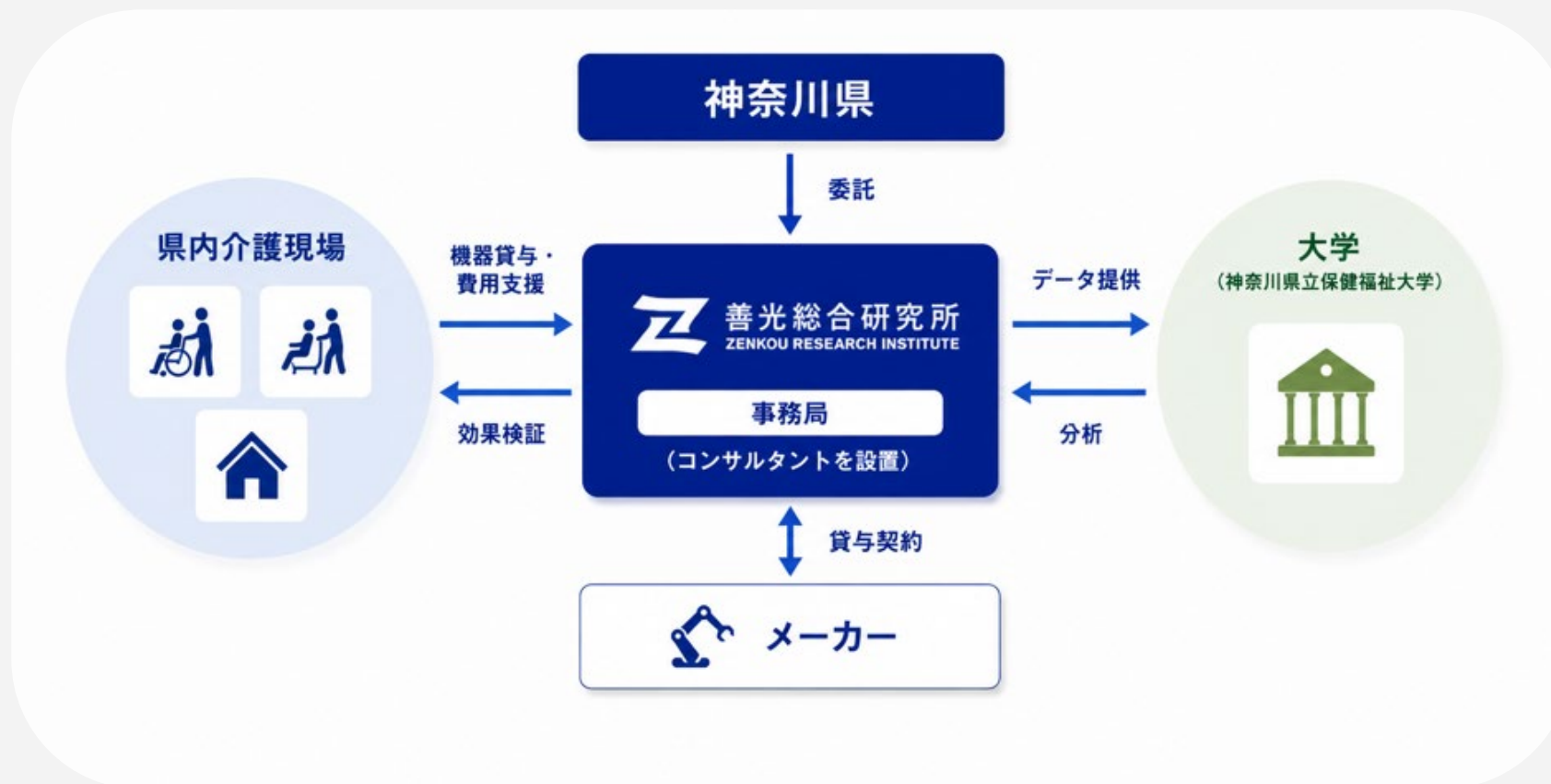
シンガポール保健大臣が介護DXの現場を視察

シンガポール保健大臣をはじめ、保健省・在日シンガポール大使館関係者が善光会サンタフェガーデンヒルズを訪問。善光総研が推進するICT・介護ロボットを活用した介護DXの取り組みを紹介。高齢化社会への対応や人材育成、テクノロジー活用について意見交換を実施しました。



神奈川県「介護ロボット実用化促進事業」を受託、協力事業所の募集を開始

善光総合研究所は、神奈川県より「令和8年度 介護ロボット実用化促進事業」を受託し、介護ロボットの試験導入に協力する県内介護事業所の募集を開始しました。介護現場への機器導入から効果検証までを行い、大学等とも連携しながら、介護テクノロジーの実用化・普及を推進します。



対日理解促進交流プログラムJENESYS

株式会社善光総合研究所は、2026年3月12日に株式会社ビーブリッド主催のシンポジウム「海外展開を見据えた介護テクノロジーの研究開発」に登壇いたします。本シンポジウムでは、日本における介護テクノロジーの研究開発や社会実装の事例が紹介され、当社は海外展開を視野に入れた研究開発の取り組みについて紹介する予定です。



「NCXX RACING with RIDERS CLUB」が鈴鹿8耐 SSTクラス優勝

株式会社ネクスが公式スポンサーを務めるレーシングチーム「NCXX RACING with RIDERS CLUB」が、2026年7月に開催された鈴鹿8時間耐久ロードレースに出場し、SSTクラス優勝（総合14位）を果たしました。ネクスは今後も、モータースポーツに挑戦する同チームの活動を応援してまいります。



補足説明

Appendix

01

02

03

04

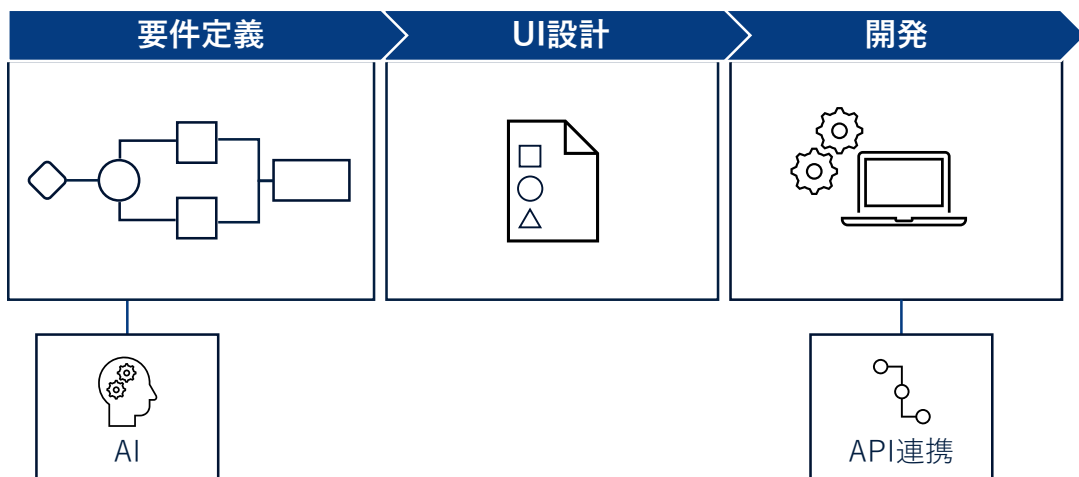
05

06

ITサービス事業の成長エンジン「DXソリューション」について

2024年10月期末より始動したDXソリューションサービスは、収益の柱であるITサービス事業における成長ドライバーとして位置付けております。DXソリューションサービスを起点として、顧客の根本課題を把握することで従来以上の価値を顧客に提供できるものと考えております。

PEGAのソリューションを活用して
クライアントとの業務フローを包括的に改善



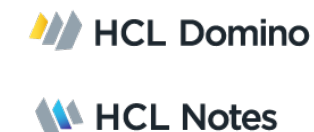
HCLのソリューションを
クライアントとのニーズに応じて導入



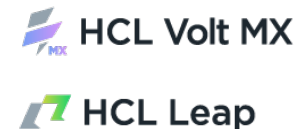
マーケティング



グループウェア



ローコード開発



セキュリティ



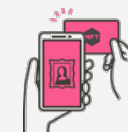
営業体制の強化や既存顧客との取引拡大、新規案件獲得により収益機会の拡大に取り組む

金融サービス事業について

当社の金融サービス事業は一貫してWeb3領域における新規事業の開拓を行ってまいりました。審査制NFTローンチパッド「INO Fine」の運営および、自社発行暗号資産「カイカコイン」を活用したサービスの展開などを行っております。今後、INO Fineを中心に事業を拡大するとともに、カイカコインのユーティリティを向上させることで、Web3事業の成長を図ってまいります。



INO Fine会員特典



Now Available



電子書籍読み放題

Now Preparing



協賛店で特典獲得



特別なイベントに招待



特別なNFTを配布

金融サービス事業 - カイカコインについて※1

カイカコインは、当社が発行するイーサリアムネットワーク上のERC20規格に準拠した暗号資産で、2023年にはPolygon対応を完了し、マルチチェーン化を実現しました。現在は国内暗号資産交換所Zaifに上場しており、8年に及ぶ運用実績を有します。当社は上場企業としての責任のもと、活用シーンの拡大を通じてカイカコインの価値向上に取り組んでまいります。

カイカコイン発行状況

発行済枚数

300百万CICC

上場取引市場

Zaif(国内)

時価総額※2

約150百万円

取引価格※2

約0.5JPY/CICC

1. 本頁記載の内容は情報の提供を目的としており、暗号資産の投資勧誘を行うものではないことをご了承ください。
2. 2026年9月9日現在の時価、及び現在時価を参考に算出

IoT関連事業の製品紹介

ネクスは、通信技術を基盤としたテクノロジーソリューションを展開し、産業機器の遠隔監視や重要インフラのバックアップ用途で信頼されるデータ通信端末を主力としています。テレマティクス事業では、OBD II 端末を活用した車両データにより安全運転指導や業務効率化を支援。さらにエッジAI領域に注力し、画像解析や5G/RedCap対応製品を通じてDXを推進しています。

データ通信端末



「インターネット接続機器」に留まらず、社会インフラ産業機器を支える「止まらない通信」を支えています。

- 複合機の遠隔監視
トナー残量や故障予兆をメーカーへ送信
- 重要インフラのバックアップ
ATM、POSレジ、データセンターなど
- 高セキュリティテレワーク環境実現

テレマティクス



自動車のOBD II コネクタに接続する専用端末を提供し、車両情報をクラウドへ送信します。

- 社用車、レンタカー、リース車両の状況をクラウドへ記録します。
- 安全運転指導
急ブレーキ、急発進、急ハンドルなどを検知してクラウドへ記録
 - 車両管理
走行ルート、アイドリング状況を記録

AI・受託開発



「エッジAI」機器開発、顧客要望による「専門端末開発」を行います。

- カメラ映像などをクラウドに送る前に、エッジAIにより処理を行います。
- 鉄道の混雑検知
車両ごとの混雑状況の算出
 - 人流解析
商業施設での顧客属性の解析
 - 体験型デジタルサイネージ
属性に応じたコンテンツの配信

株式会社善光総合研究所の事業概要

善光総合研究所は、介護現場のDX化推進を目的として、現場起点で開発された介護アプリケーション「SCOP」の開発・販売等を行っており、すでに1,200以上の介護施設様にご利用いただいております。当社が得意とするAI、ブロックチェーンと、ネクスのIoT通信技術を融合することで、SCOPをさらに高度化し、介護現場の業務効率向上と付加価値創出を図ってまいります。

スマート介護プラットフォームの次世代化

善光総研が開発提供する介護現場の業務効率化及び記録業務のデジタル化を実現する総合介護ソフトウェアである「SCOP」プラットフォームをベースに、当社グループのブロックチェーン、IoT 通信技術を組み込み、「介護機器データ+利用者記録+施設運営データ」を統合管理し、トークンインセンティブやサービス価値可視化モデルを構築。

施設向け IoT／通信ソリューション提供

当社グループが手掛ける IoT、M2M 及び 5G 通信モジュール等を、善光総研が運営する、利用者の行動分析を行うセンサー機器や利用者の移乗を助ける介護ロボット機器などの実証環境「Care Tech ZenkoukaiLab」に導入・実証。見守りセンサー等で取得したデータをセキュアな通信環境によりクラウドに集約し、データ分析可能とするソリューションを介護現場へ展開。

金融サービス+介護サービスパッケージ

高齢化社会において、サービス利用者が安心かつ快適に使える施設が持続的に運営できるような仕組みとして、当社グループのデジタル金融のノウハウを活かした支払い・報酬・人事評価連動のインセンティブ体系などを善光総研と研究。



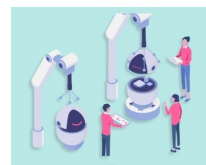
介護DX事業



デジタル中核
人材育成事業



コンサルティング
事業



介護機器メーカー
開発支援事業

データ分析・AI 活用による価値提供

当社グループの DX・ビッグデータ技術と善光総研の介護現場知見で、介護施設で IoT により取得されるリアルタイムデータ（介護機器からの計測データ/介護記録データなど）を用い、AI モデルによる業務改善・予測（人材配置、転倒予防、入浴支援最適化など）を共同開発し、善光総研の顧客に販売。

介護向けコンサルティング事業の体制強化

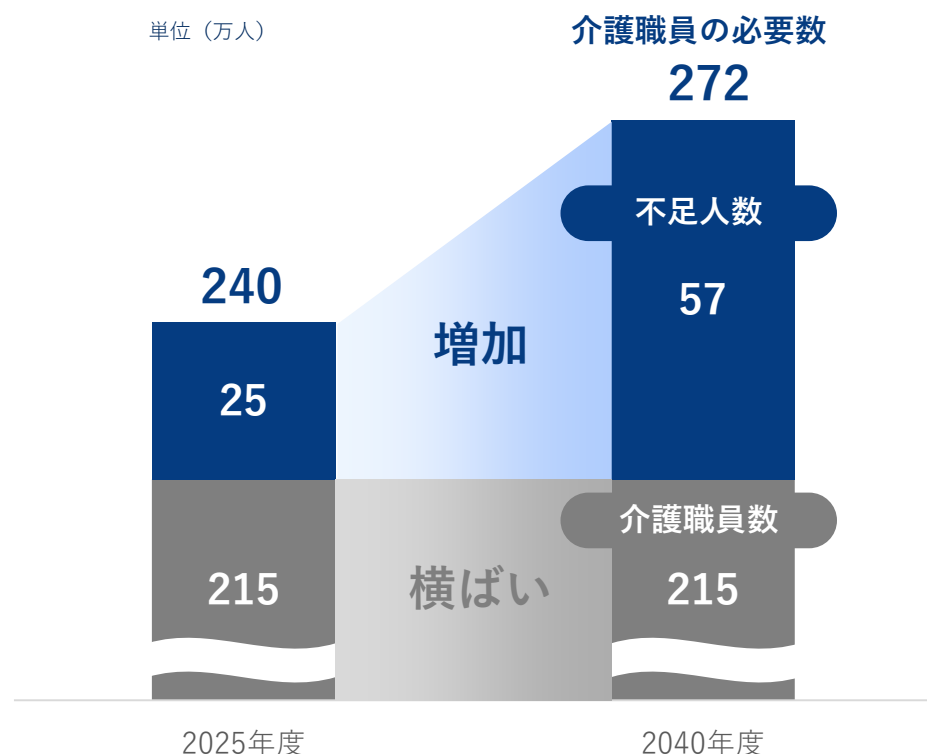
当社グループの IT 実装から運用まで一気通貫で対応可能なコンサルタント部隊と、善光総研が持つ介護事業所経営改善・DX コンサルティングのノウハウ（スマート介護士育成カリキュラム等）が連携。これにより、システム導入にとどまらない組織変革（BPR）支援の体制を強化し、コンサルティングサービスの顧客層を拡大。

介護業界で深刻化する人手不足と現場の課題

介護需要が拡大する一方、介護職員の不足は今後さらに深刻化する見通しです。人手不足は職員の身体的・精神的負担を高め、入居者へのケアや安全管理にも影響を及ぼします。

加速する介護業界の人手不足

単位（万人）



現場で発生する障害

人手不足により現場負担が増大

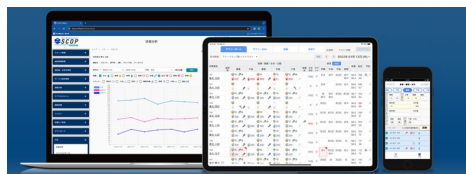
- 介護職員1人が複数の入居者を見ているため、入居者一人ひとりの状態を継続的に把握することが難しい
- 移乗介助などにより、介護職員の身体的負担が増大
- 入居者と向き合う時間を十分に確保できない
- 転倒などの異常の発見や初動対応が遅れるおそれ



介護現場の課題を解決する、善光総研のテクノロジー活用型オペレーション

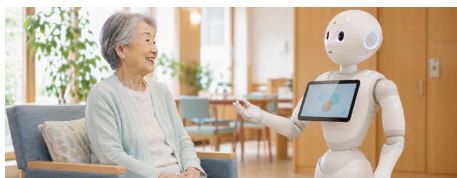
善光総研は、介護現場で培った知見をもとに、SCOPや見守り機器、介護ロボットなどを組み合わせ、現場の業務を改善。利用者の状態把握や移乗、コミュニケーションなど、介護職員の負担となる業務をテクノロジーで補完します。職員の負担を軽減しながら、利用者向き合う時間を創出し、介護サービスの質向上につなげています。

介護ソフト「SCOP」

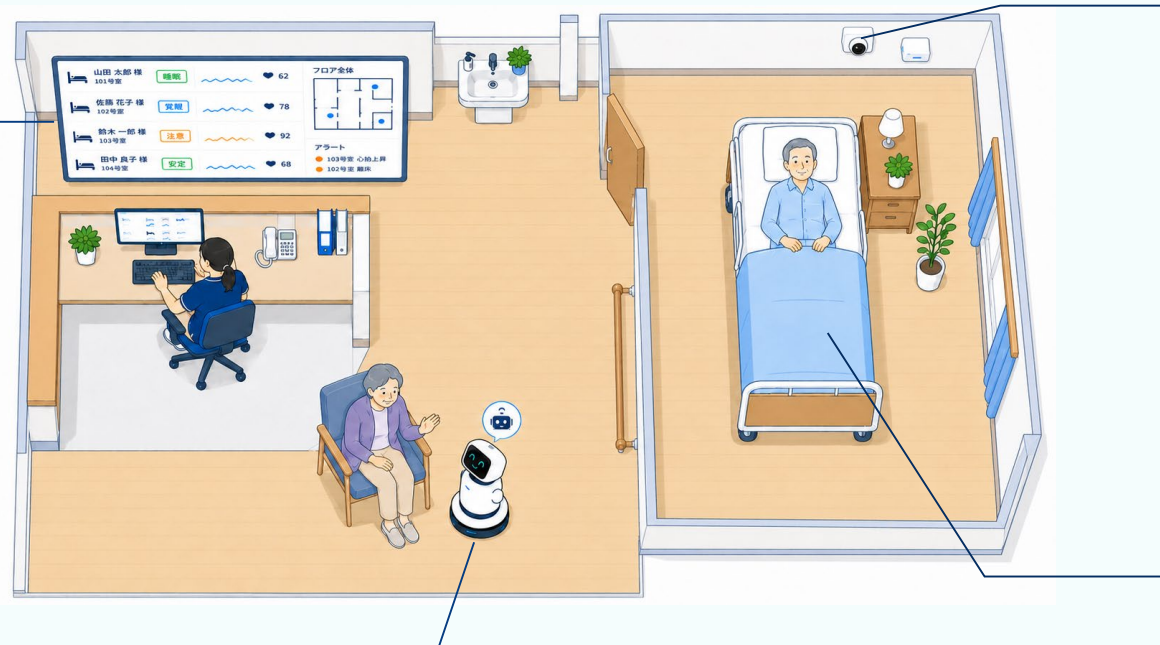


善光会の現場ノウハウをもとに開発された介護DXプラットフォーム。介護記録や利用者情報を一元管理し、介護ロボット・ICT機器との連携により、業務効率化を実現。▶ P64詳細

介護用ロボットとの交流・リハビリ



介護用ロボット「Pepper」を活用し、入居者との会話や遊びを促進。体操などのリハビリを楽しく継続できる環境をつくれます



移乗支援ロボットで介護負担を軽減

ベッドから車いす、トイレ、浴室などへの移乗をロボットがサポート。抱き上げ動作による介護職員の身体的負担を軽減。少ない人数でも安全な移乗介助が可能となり、介護業務の省人化を実現。

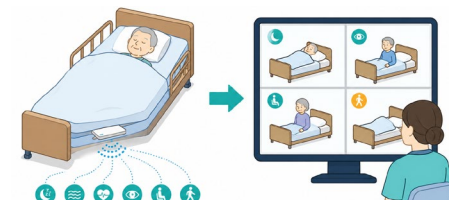


AI見守りで事故の予防から原因分析まで対応



スマートフォンから居室の様子を遠隔で確認。AIによる転倒検知とナースコールで、緊急時にも迅速に対応。転倒前後の映像を録画し、事故原因の分析や再発防止に活用できます。

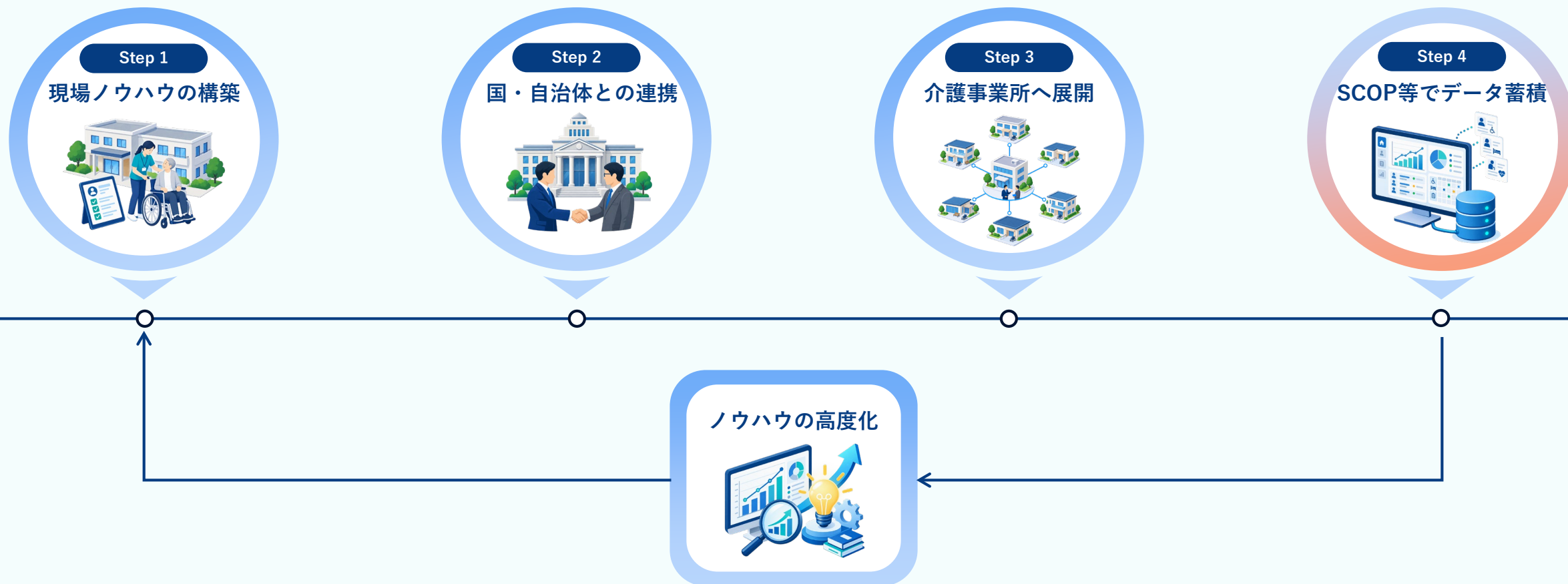
睡眠状態を可視化



ベッド上の利用者の睡眠・覚醒・起き上がり・離床などをリアルタイムで確認。状態の変化を介護職員へ通知し、必要なタイミングでのケアや見守りを実現。

行政との連携を起点に、介護現場の改善ノウハウを広く展開

善光総研は、介護事業を運営する**3,000法人超との接点**を有し、国・自治体から受託する介護DX・生産性向上事業を通じて、**昨年度だけで2,000法人超にコンサルティングを提供**しました。善光会の現場で培った知見をもとに、ICT・介護ロボットの導入や人員配置・業務フローの見直しを支援し、行政との連携を通じて地域の介護現場へ改善施策を展開しています。



導入拡大によりストック収益が積み上がる「SCOP」

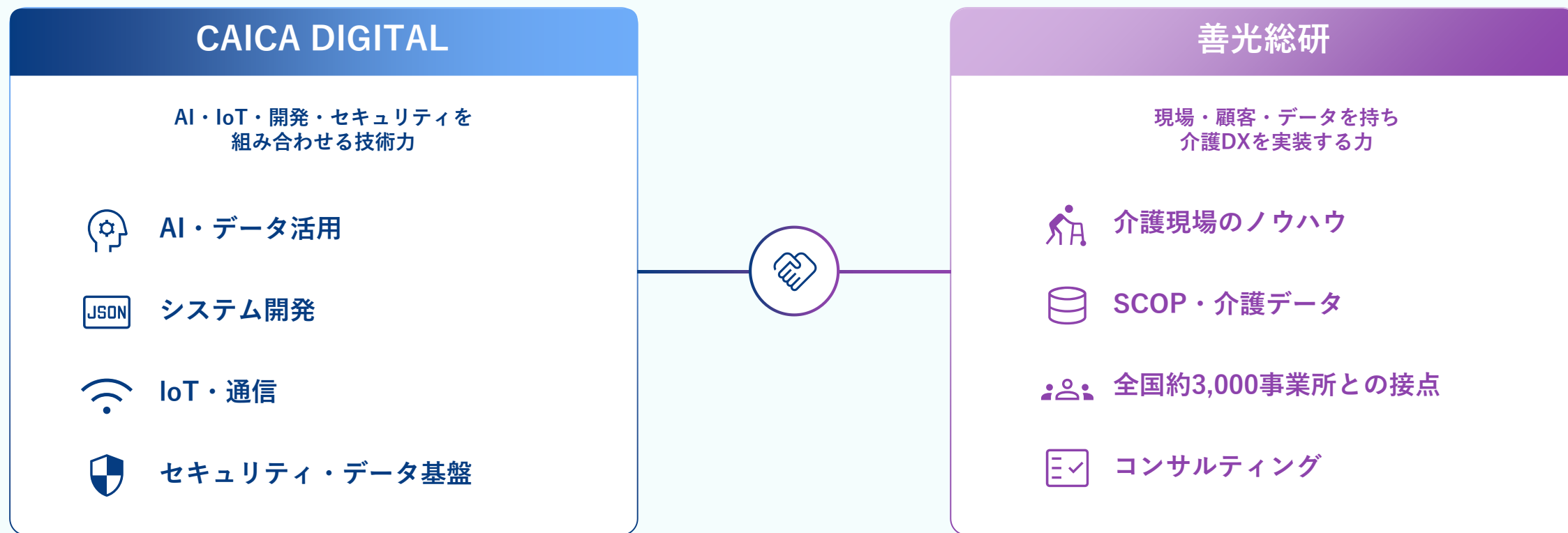
善光会の介護現場で培ったノウハウをもとに開発した介護DXプラットフォーム。低価格で導入しやすく、解約率の低いストック型収益を形成するとともに、コンサルティングや人材育成へ顧客をつなぐ事業展開のハブとして機能しています。

ストック売上の拡大により
安定した事業拡大を図る



CAICAグループとの連携で、介護DXをさらに加速

善光総研が持つ介護現場のノウハウや全国の顧客基盤に、CAICAグループのAI・IoT・システム開発などの技術力を融合。SCOPの高度化や業務効率化を進めるとともに、蓄積された介護データを活用した新たなサービス創出につなげます。グループシナジーを最大限に活かし、介護現場の課題解決と介護DX事業のさらなる成長を目指します。



本資料について

- 本資料は、株式会社CAICA DIGITAL（以下、当社）の決算情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資に際しては、ご自身の判断と責任において投資判断を行って頂きますようお願い致します。また、本資料の記述内容につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。
- 本資料には、当社および連結子会社の計画など将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づいており、様々なリスクや不確実性が内在しています。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
- 本資料は一部(百万円)または(千円)以下を切り捨てて掲載しております。一方、前期比等については切捨て前の数字を参照し任意の位で四捨五入をした上で算出した数値を掲載しております。